



# くものいと

KU MO NO I TO

No. 51

関西クモ研究会

March 2018

# くものいと No. 51

March 2018

## 目次

和歌山県におけるクロガケジグモの分布	関根幹夫	1
マレーシアのクモ相撲	関根幹夫	3
滋賀県大津市でキジロオヒキグモ	福田孝男	5
和歌山県におけるナカヒラハエトリの初記録	関根幹夫	6
大阪都心の靱公園のジグモとワスレナグモ	—この26年間の変遷— 桂孝次郎・奥野晴三	7
ヒトエグモの生息分布調査2（京都市以外の地域）	藤野義人	10
クモの卵囊の中にいた毛虫	船曳和代	15
セアカゴケグモの駆除を楽しくしよう	黒田あき	17
「山門水源の森 現地交流会」感想	黒田あき	18
箕面公園滝道採集記録	黒田あき	18
大阪南港中央公園採集記録	黒田あき	19
ハツリグモの住居について	黒田あき・黒田 誠	20
クモの飼育方法	黒田あき	21
滋賀・京都のクモ類（2012）	吉田 真	23
阪神地方の冬のクモ	清水裕行	30
滋賀県 山門水源の森におけるトラフワシグモの採集記録	伊藤 博	33
関西クモ研究会採集会の記録（2017年度）		34
関西クモ研究会 2017年度例会の記録		36
関西クモ研究会 2016年度会計報告		

くものいと 第51号

2018年3月23日 発行

関西クモ研究会

事務局：569-0087 大阪府高槻市千代田町 1-1-527

加村隆英 方

kamura@haruka.otemon.ac.jp

会 長：田中 穂積

庶務幹事：山野 忠清

会計幹事：吉田 真

編集幹事：加村 隆英

顧 問：西川 喜朗・船曳 和代

会計監査：関根 幹夫

## 和歌山県におけるクロガケジグモの分布

関根 幹夫

Distribution of *Badumna insignis* (Araneae: Desidae) in Wakayama Prefecture

Mikio Sekine

## はじめに

クロガケジグモ *Badumna insignis* (L. Koch 1872) (クモ目ウシオグモ科) は、オーストラリアからの帰化種で、1963年に大阪府で最初に確認され(八木沼 1974)、1975年には、後藤岳志氏により和歌山県西牟婁郡すさみ町での生息が確認された。これは、大阪府に次ぐ全国で2番目の発見であった(八木沼・新海 1976; 後藤 1978a, 1978b)。クロガケジグモの和歌山県内の既知産地は、すさみ町の他に、海南市(旧下津町)、田辺市天神崎、新宮市高田雲取温泉、美浜町煙樹ヶ浜と有田川町清水および西ヶ峯が報告されている(東條 1996; 和歌山クモの会事務局 1997; 稲垣 1999; 東條 2001; 関根 2016)。また、本種の分布範囲は、近畿地方から日本各地に拡大している(新海ほか 2016)。今回、和歌山県の外来種リスト作成及び和歌山県レッドデータブック改訂に係る現地調査として、本種の生息分布調査を2017年6月に行った。その結果、和歌山県内における本種の生息範囲の概略を把握できたので、ここに報告する。

## 方法

和歌山県内の主要国道・県道沿いの自動販売機・橋の欄干・ガードレールなどの人工物を目視で確認し、本種の網の有無を調べた。本種の「ボロ網」は、他科のクモの網とは容易に区別できる。なお近年、日本への移入が報告されている近縁種のハルカガケジグモ *Badumna longinqua* (L. Koch 1867) と網の様子だけからは区別できないことから(新海ほか 2016)、クモを確認した。

## 結果

和歌山県下の全市町村(9市20町1村)で本種の生息が確認された。調査結果を地点番号とともに図1に示した。本種は、紀北から紀南まで和歌山県内に広く分布することが明らかとなった。また、和歌山県の飛び地である北山村での本種の生息確認箇所は竹原地区の製材所とその付近のガードレールのみであった。北山村大沼の村役場と福祉センター付近および北山村立小・中学校、七色の集落、下尾井の道の駅では、本種の生息は確認されなかった。

データは市町村名：地点番号、地点名、標高、調査日(YYYY.MM.DD)の順に記した。

## I) 海草地域

和歌山市：(1) 布施屋・川辺橋付近の紀ノ川河川敷, 10 m, 2017. 6. 12

海南市：(2) 且来, 29 m, 2017. 6. 12

紀美野町：(3) 神野市場・町役場美里支所, 112 m, 2017. 6. 26

## II) 那賀地域

紀の川市：(4) 別所, 61 m, 2017. 6. 12

岩出市：(5) 舟戸・岩出橋, 17 m, 2017. 6. 12

## III) 伊都地域

橋本市：(6) 境原, 186 m, 2017. 6. 12

かつらぎ町：(7) 三谷・三谷橋南詰, 56 m, 2017. 6. 12

九度山町：(8) 椎出, 100 m, 2017. 6. 12

高野町：(9) 高野山・中の橋駐車場, 788 m, 2017. 6. 26

## IV) 有田地域

有田市：(10) 箕島・市役所付近, 3 m, 2017. 6. 12

湯浅町：(11) 湯浅・森崎交差点, 9 m, 2017. 6. 10

広川町：(12) 広・町役場付近, 4 m, 2017. 6. 10



図 1. 和歌山県におけるクロガケジグモの調査結果 (2017年). 図は, 生息確認地点と地点番号を示す.  
Fig. 1. Distribution of *Badumna insignis* in Wakayama Prefecture in 2017. Map shows the inhabited sites and the site numbers for species.

有田川町 : (13) 下津野・町役場, 44 m, 2017. 6. 26

V) 日高地域

御坊市 : (14) 菌・紀州鉄道踏切, 4 m, 2017. 6. 10

美浜町 : (15) 和田・御倉橋, 10 m, 2017. 6. 10

日高町 : (16) 高家・町役場, 9 m, 2017. 6. 10

由良町 : (17) 門前・興国寺, 55 m, 2017. 6. 10

日高川町 : (18) 土生・町役場, 10 m, 2017. 6. 10

印南町 : (19) 山口, 10 m, 2017. 6. 10

みなべ町 : (20) 北道・栄橋, 8 m, 2017. 6. 10

VI) 西牟婁地域

田辺市 : (21) 元町・田辺西バイパス, 78 m, 2017. 6. 10; (22) 中辺路町水上・公衆トイレ, 224 m, 2017. 6. 11

白浜町 : (23) 内ノ川, 10 m, 2017. 6. 10

上富田町 : (24) 朝来, 17 m, 2017. 6. 10

すさみ町 : (25) 周参見・町役場, 9 m, 2017. 6. 10



## VII) 東牟婁地域

新宮市：(26) 佐野・黒潮公園付近, 3 m, 2017. 6. 10

太地町：(27) 太地, 1 m, 2017. 6. 10

那智勝浦町：(28) 浦神・近畿大学水産研究所浦神実験場付近, 5 m, 2017. 6. 10

串本町：(29) 串本, 2 m, 2017. 6. 10

古座川町：(30) 高池・稚児橋, 9 m, 2017. 6. 10

北山村：(31) 竹原・製材所, 137 m, 2017. 6. 11

## 考 察

今回の調査により、紀北から紀南までの和歌山県下の全市町村で本種の生息が確認されたことから、本種は和歌山県内の広い範囲に定着していることが明らかとなった。本種は大阪府から、あるいは、大阪府に次いで発見されたすさみ町からその分布を拡大したものと考えられる。なお、本種は自動車の貨物や鉄道などへの便乗によって分散する可能性が指摘されている（亀田ほか 2010）。北山村での本種の生息確認箇所が竹原地区の製材所とその付近のガードレールのみであり、村内の他所での生息は確認されなかったことから、本種は車両への便乗により比較的最近に北山村へ移入したものと思われる。

## 引用文献

後藤岳志 1978a. クロガケジグモの生活. *Atypus*, 71: 40–43.

後藤岳志 1978b. クロガケジグモの飼育. *Atypus*, 72: 31–32.

稲垣成二 1999. 雲取温泉でクモを採る. *和歌山クモの会会報*, 9: 12–14.

亀田篤史・有馬千弘・谷本純子・花房佑樹・鶴崎展巨 2010. 鳥取県におけるクロガケジグモの分布範囲. *山陰自然史研究*, 5: 55–60.

関根幹夫 2016. 和歌山県有田川町で確認したクモ. *くものいと*, 49: 7–8.

新海 明・谷川明男・安藤昭久・池田博明・桑田隆生 2016. CD日本のクモ ver.2016. 著者自刊.

東條 清 1996. セアカゴケグモが鶏肉を食べる！ *和歌山クモの会会報*, 6: 2–3.

東條 清 2001. 和歌山クモの会総会と観察会報告（2000年度）. *和歌山クモの会会報*, 11: 15–16.

和歌山クモの会事務局 1997. 和歌山クモの会 総会と観察会（1996年度）. *和歌山クモの会会報*, 7: 11–12.

八木沼健夫 1974. 日本の真正蜘蛛類相（IV）. *追手門学院大学文学部紀要*, 8: 169–173.

八木沼健夫・新海栄一 1976. 分布資料. *Atypus*, 66: 47–48.



## マレーシアのクモ相撲

関根 幹 夫

The Spider-fighting in Malaysia

Mikio Sekine

日曜日の夕方に放映されているNHK・BS1の45分番組「Cool Japan 発掘かつこいいニッポン」。テーマ「虫」のなかで、鹿児島加治木町のくも合戦がオンエアされました（2017年8月27日）。番組制作スタッフからの、日本各地のクモ相撲についての問い合わせに答えましたので、鹿児島・加治木町の他に、高知・四万十市、長崎・西海市、熊本・熊本市、熊本・芦北町、大分・大分市、和歌山・海南市、千葉・富津市、神奈川・横浜市が紹介されました。

さて、番組を視聴したところ、出演者のマレーシア女性が、「マレーシアにも、くも合戦があります」とおっしゃっていましたので、以下の質問を照会してほしい、と…依頼しました。

1) いつごろ

2) どこで

3) どのような戦わせ方で（手で持った横棒の上？、何かで固定した横棒の上？、地面？、その他）



図 1. マレーシアのクモ相撲で使用されるクモ。写真は、アウニさん提供。

- 4) もしわかればクモの名前（現地名，学名）
- 5) 金銭を賭けているか否か

その結果，製作スタッフを通じて，出演者のマレーシア女性，Aunee Azrina（アウニ・アズリナ）さんから，マレーシアのクモ相撲情報が得られましたので，ここに紹介します。

要点としては：

- ・くも合戦はかつてほど一般的ではない。
- ・大会のような大きなイベントは開催されていない。
- ・マレーシア全土で放課後の遊びなどとして，主に男性を中心に広く行われている。
- ・クモは小さな箱の中や地面，机の上で向かい合わせて戦わせる。
- ・逃げたほうのクモが負け。
- ・クモの名前はわからないが写真を添付しました。
- ・子供は純粋に遊んでいるが，大人はお金をかけもする。

頂いた写真（図 1）と 3 本のビデオ映像，<https://www.youtube.com/watch?v=oXALyaGsk30>，<https://www.youtube.com/watch?v=Pv66VqgirvA> 及び <https://www.youtube.com/watch?v=Xh8y3k5Wsug>（2017 年 9 月 11 日参照）から，ハエトリグモのオスを戦わせることが判りました。同様のクモ相撲は，シンガポールでも行われており，使用されるクモは *Thiania bhamoensis* Thorell 1887 です（Koh 1989）。この種は，シンガポール・マレーシア・インドネシア・ミャンマーに分布するとされていますので，マレーシアのクモ相撲で使用されるハエトリグモも *Thiania bhamoensis* と思われます。

#### 引用文献

Koh, J. K. H. 1989. A guide to common Singapore spiders. Singapore Science Center, 160 pp.

## 滋賀県大津市でキジロオヒキグモ

福田 孝 男

2017年9月19日、午前10時頃、大津市比叡平でキジロオヒキグモを見ましたので報告します。

大津市比叡平は、京都と大津を結ぶ下鴨大津線、通称「山中越え」の比叡山ドライブウェイへの入口南に開発された団地です。標高は350 m ~ 400 mほど。団地のいちばん北側、道路際に比叡平小学校があり、道路と学校の間は森になっています。森は、リョウブ、ソヨゴ、ヒサカキ、イロハカエデ、ヤマザクラ、コシアブラ、などが自生した暗い森で、地面にはほとんど草は生えていません。以前から、小学校に通う子どもたちが、休み時間や放課後、冒険遊びにつかっていたようですが、近年、シカとそれに伴うダニ、時にはクマの噂などもあり、子どもたちの立ち入りはほとんどなくなっていました。

団地住民の有志が、何とか子どもたちの遊べる森にしようと、鹿よけのネットを設置したり、不要木を伐採する作業を始めたりしています。その作業に参加した折、偶然森の中でキジロオヒキグモを見つけました。実は、見つけたのは私ではなく、いっしょに行動していた中学生が、こんなところにクモがいるよ、と教えてくれたのです。

何の木だったかは確認できませんでしたが、細い立木が二股になったところ、目の高さあたりに、大きさは直径15 cmほどの円網が垂直に張られていました。きれいな円網でしたが、横糸の間隔はゴミグモなどよりは広かったと思います。たまたま、網には日光が当たっていて、網の中心に10 mmほどの茶色のかたまりが止まっていました。はじめは枯葉か何かの抜け殻が引っかかっているのかと思いました。念のためと、ちょっとつついてみると動きだし、クモであることがわかりました。

森の作業中だったので、ノコギリや剪定ばさみは持っていたものの、ルーペやプラスチックのケースなどはなく、作業の記録用にカメラだけは持っていたので、とりあえず写真を撮ったのですが、すばしこく、きれいな写真になりませんでした(図1)。いっしょにいた中学生が軍手に乗せてくれたのを撮ったものが図2-3です。見たとき、背中白い部分がV字の形に食い込んでいるのが印象に残りました。

ひどい写真ですが、証拠写真ということでご勘弁ください。図1は、まだ網にいた時に撮ったもの、図2は逃げるお尻のあたりにピントが合っていました。図3は体の前方に何とかピントが合いました。



図1-3. キジロオヒキグモ. 1(左), 網にいる個体; 2(中)と3(右), 軍手の上で撮影したもの.

帰宅して、図鑑（新海 2017）で調べて、キジロオヒキグモではないか、と見当をつけました。写真はひどいものでしたし、作業中だったので、ゆっくり観察はできなかったものの、記憶に残った印象が、図鑑とぴったりでした。しかし、「希少種」とあったので自信はなく、すぐに吉田真先生にメールで写真を送ったところ、間違いないだろう、というお返事をいただきました。

手元にあった「CD 県別クモ類分布図 Ver. 2008」（新海ら 2008）を見ましたら、滋賀県ではまだ記録がありませんでした。CD がちょっと古いようなので、その後、記録があるのかもしれないが、もしかして、これが滋賀県初記録...などと考えるとワクワクします。

#### 文献

新海栄一 2017. 日本のクモ (増補改訂版). 文一総合出版, 407 pp.

新海明・安藤昭久・谷川明男 2008. 県別クモ類分布図 Ver. 2008. CD, 著者自刊.

---

【編集担当者による補足】新海ら (2016) によると、キジロオヒキグモは滋賀県では未記録です。今回の報告が本種の滋賀県における初めての記録になるようです。

文献：新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2016. CD 日本のクモ ver. 2016. 著者自刊.

---

## 和歌山県におけるナカヒラハエトリの初記録

関根幹夫

New record of *Sibianor kochiensis* (Bohdanowicz & Prószyński 1987) in Wakayama Prefecture

Mikio Sekine

ナカヒラハエトリ *Sibianor kochiensis* (Bohdanowicz & Prószyński 1987) は、体長雌雄 4 mm, 植林地の地表に見られ、スギ林に多く、須黒 (2017) によると、5 段階の★の数で表した「レア度」は★★★ (星 3 つ) とされている。本種は、新海ほか (2016) によれば、秋田県・東京都・神奈川県・山梨県・愛知県・三重県・鳥取県・岡山県・高知県・福岡県・長崎県で記録されており、和歌山県からは未記録になっている。土壌性昆虫を調査しておられる的場績氏 (和歌山県昆虫研究会) により和歌山県で採集された液浸標本の中に本種が含まれていたのここに報告する。報告にあたり、標本を恵与していただいた的場績氏に感謝申し上げます。

採集地：和歌山県伊都郡高野町相ノ浦，リター中の土壌動物の抽出から得られた。

採集日：2017 年 5 月 27 日

採集者：的場 績

同定者：関根幹夫

採集されたクモ類：ダニグモ 2♀，ナミハグモ類の一種 2 幼体，ヤチグモ類の一種 1 幼体，カニグモ属の一種 1♀未成熟個体，ナカヒラハエトリ 1♀の合計 4 種 7 頭。

#### 引用文献

新海 明・谷川明男・安藤昭久・池田博明・桑田隆生 2016. CD 日本のクモ ver.2016. CD, 著者自刊.

須黒達巳 2017. ハエトリグモ ハンドブック. 文一総合出版, 144 pp.



# 大阪都心の<sup>うつぼ</sup>鞆公園のジグモとワスレナグモ –この26年間の変遷–

桂 孝次郎・奥野晴三

筆者らは「鞆公園の自然」の中で鞆公園（大阪市西区）のジグモ（図1）とワスレナグモ（図5）について報告した（桂・奥野ほか 1993）. 内容は、ジグモとワスレナグモの分布、ジグモの旅立ちと気温の関係、これら2種の旅立ち時期のちがいが、ワスレナグモの保護のための調査とクモの住居（巣）の移動であった. その後、鞆公園は1995年に阪神淡路大震災で液状化現象を経験した. そして1996年には西園の地下駐車場化の工事が行われた. 2005年から東園の大規模なりニューアル化の工事が行われ、その自然環境は大きく一変した. このまま放置すれば回復不可能なダメージを被る可能性が高かった. そんな中、私たち鞆公園自然研究会の活動が評価されて、大阪市により2009年から2010年に自然環境の回復をこころみる場所「いのちの森」が東園の中央部に2ヶ所開設された. この「いのちの森」はテニスコート2面分くらいの約1500 m<sup>2</sup>の小さなものであるが、そこは金網のフェンスに囲まれ普段は人が入れないゾーンとなっている. そのため鳥や虫が鞆公園内外からも集まり、2016年にはムツゲイセキグモという珍しいクモの発見もあった（桂 2016）.

今回、ジグモとワスレナグモの分布で、過去26年間の自然環境の変遷、「いのちの森」の存在について考察できるのではないかと考え、2017年12月と2018年1月にこれら2種の生息調査を実施し、その変遷についてここに報告する.

## ジグモの分布の変遷と自然環境

### ① 1991年（26年前）の鞆公園

西園にはサッカー場の草原があり、東園には旧バラ園や石段でできた円型のオープンテニスコートがあり、まわりはほとんどが照葉樹が繁り、公園全体が湿った環境で、ジグモは園内各所に多数生息していた（図2）.



図1. ジグモ. 左から、雌の成体；巣；子グモの旅立ち（バルーニング）によって形成された糸のかたまり；飛び立とうとする子グモ（時期は2～3月）.

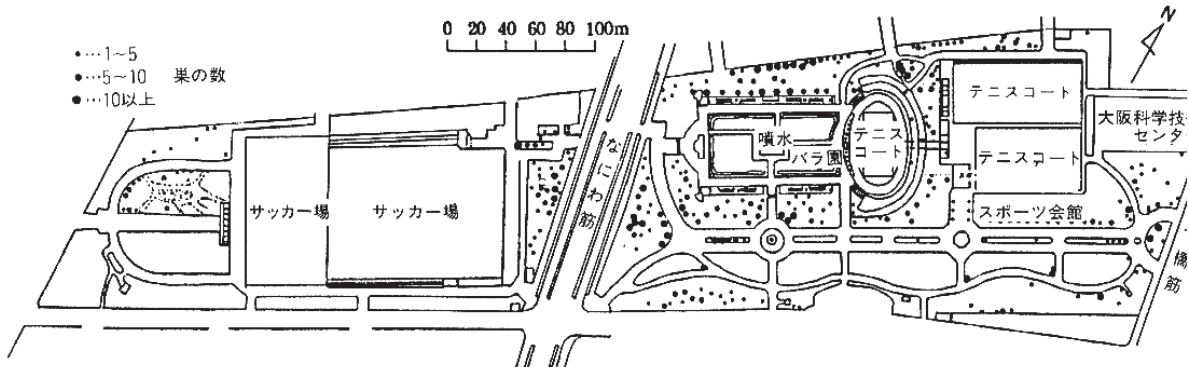


図2. 1991年（26年前）のジグモの分布状況.

## ② 2009年（約10年前）の韮公園

1996年には西園の地下駐車場化工事にともない、大フジ柵やサッカー場が撤去され、多くの樹木も伐採され、ほとんどがテニスコートになった。さらに2005年～2007年に行われた大リニューアル化で、東園はバラ園の大改修、公園入口の改修と歩道の舗装化、森林中間層の伐採等で照葉樹林だった森は開けたサバンナ様の林となり、地表はカラカラに乾燥した公園となった。2009年のジグモの調査では、北側の住宅に隣接するところの暗い場所に少数の個体の確認が出来ただけで、ほとんどの場所からジグモはいなくなり、韮公園から絶滅するかと危惧された（図3）。

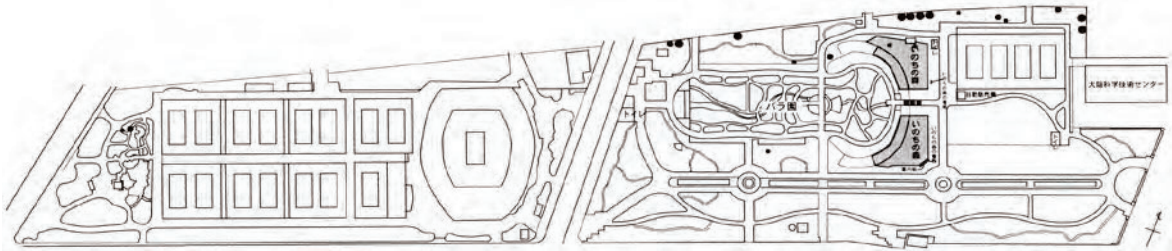


図3. 2009年（約10年前）のジグモの分布状況.

## ③ 現在（2018年）の韮公園

本公園内の多数の地点でジグモの巣が確認されるようになり、ここ10年近くで韮公園の自然がかなり回復してきていると考えられる。調査をしていて「いのちの森」近辺を中心にジグモが大変多く生息しているように感じられた。リニューアル後の2009～2010年に作られた「いのちの森」の存在が大きく、「いのちの森」の中の落ち葉が自然のままで放置され、地面の乾燥化を防いでいて、多くのジグモの繁殖を容易にし、そこから出てきた子グモが風で飛ばされて分散移動したように思える。また、リニューアル後に植えられた植物、とくにホームレスの人たちなどが森を利用しにくくなるような、ヒイラギナンテン群落やササ群落・ツツジ群落などの密植植物群落植えられたことも大きい。こういった植栽環境によって地面の乾燥化が防がれたことが、ジグモが分布を再び広げた大きな要素と考えられる。しかし、分布図を詳しく見ると、1991年当時に多く生息していたテニスコート南側（13地区）のサクラ林下横のツツジ群落のところ（春になると花見客でいっぱいになる）は現在ほとんど姿を消してしまっている。この場所は、近年ゲートボールの練習などに利用され、その落ち葉は常に掃除され、乾燥化が激しくなり、ジグモがいなくなってしまうと同時にサクラも枯れはじめていると思われるのが残念である（図4）。

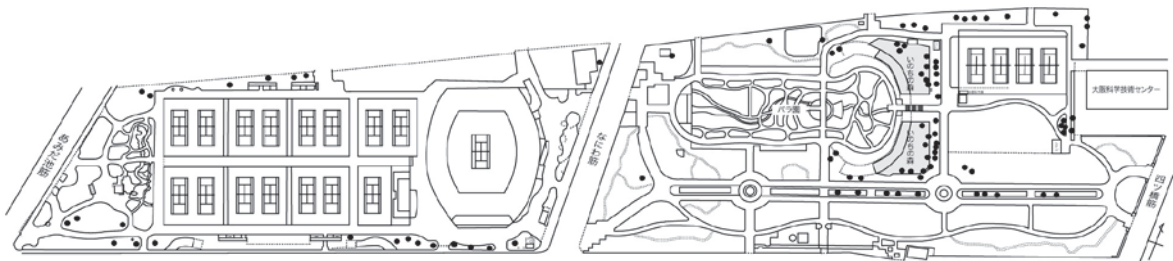


図4. 現在（2018年）のジグモの分布状況.

## ワスレナグモの分布の変遷

本種はジグモと違って、巣の確認がむずかしい（図5）。特に冬の調査では巣の入口が塞がれ、発見が困難である。そのため分布図はほとんどが夏の子グモの旅立ち（バルーニング）



図 5. ワスレナグモ. 左から, 雌成体; 巣穴; 子グモの旅立ち (バルーニング) によって形成された糸のかたまり; 飛び立とうとする子グモ (時期は 8~9 月).

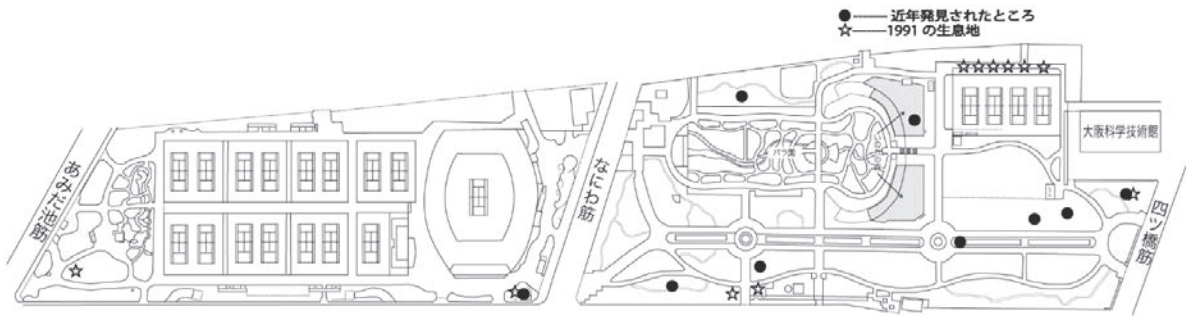


図 6. 1991 年と近年 (2009~2017 年) のワスレナグモの分布状況 (主に子グモの旅立ちの記録による).

の記録によるものである. 多産地であった東園のテニスコート北側のところは, 1991年に土地改造 (大きなポプラの木やネザサ群落の伐採と盛り土) がされ, 現在は全く発見できなくなっている. ただ, 私たちはこの場所にいた多くのワスレナグモを韮公園内の各所に巣ごと移植した (1991年2月17日) 経緯があり, その成果が確認できて, 現在も韮公園の住人となって確実に生息しているのはうれしい事実である (図6).

#### 参考文献

- 韮公園自然研究会 2012. いのちの森・生物多様性公園をめざして ー大阪都心・韮公園の自然と歴史ー. 大阪自然史センター, 305 pp.
- 桂 孝次郎 2016. 大阪都心の韮公園「いのちの森」で見つかったムツトゲイセキグモ. くものいと, 49: 21-24.
- 桂 孝次郎・奥野晴三・山本博子 1993. 韮公園の自然 ー都市の自然への招待ー, 大阪街なか昆虫ウォッチング. 自費出版, 197 pp.



## ヒトエグモの生息分布調査 2 (京都市以外の地域)

藤野 義人

### 1. はじめに

筆者は、ヒトエグモが京都市内全区で生息していることを確認した(藤野 2017)。2004年から京都市以外の地域でも生息調査を行ってきたが、その結果、京都府長岡京市、京都府八幡市、大阪府堺市、奈良県奈良市、滋賀県大津市でもヒトエグモが生息していることを確認したので報告する。

### 2. 研究方法

(1) 調査期間 2004年10月～2017年12月

(2) 調査地域, 調査地

<調査地域>

京都府：八幡市, 長岡京市, 宇治市, 京田辺市, 城陽市, 宇治田原町, 精華町, 久御山町

大阪府：大阪市, 堺市, 寝屋川市

奈良県：奈良市

滋賀県：大津市, 野洲市, 近江八幡市, 彦根市, 多賀町

徳島県：徳島市, 阿波市, 鳴門市, 上板町, 板野町

香川県：三豊市, 観音寺市, 琴平町, 善通寺市, 多度津町, 高松市, さぬき市

<調査地>

調査地域に所在する神社 62 社, 寺院 41 院で調査を行った。調査地を表 1 に示す。

(3) 調査方法

神社や寺院の屋外で調査を行った。境内にある木造建造物の柱や板の隙間, 屋根瓦の隙間, 石垣や石燈籠, 供養塔など石造建造物の隙間, 大木の樹皮下などを調査した(図 1)。隙間の調査には, ヘッドライトを用い, 隙間を覗き込み目視でクモを確認した。採集可能な場合には薄く削った竹串などを用いてクモを追い出し採集した。採集した個体は, 計測用シャーレに入れ, 採集場所, 雌雄, 体長, およその齢を記録し写真撮影を行った。種の保護のためクモは元の場所へ逃がし, 標本用, 飼育用のクモは最小限に止めた。(調査方法については, 藤野(2017)を参照。)



図 1. 調査場所。左から, 大木の樹皮下, 境内神社の柱と板の隙間・石燈籠の隙間, 瓦積みの際間。

### 3. 調査結果

(1) 生息確認地

本調査で, 京都府長岡京市, 京都府八幡市, 奈良県奈良市, 大阪府堺市, 滋賀県大津市の 2 府 2 県 5 市でヒトエグモの生息を確認した。生息を確認した調査地を表 2 に示す。

表 2 の通り, 京都府長岡京市楊谷寺, 京都府八幡市石清水八幡宮, 奈良県奈良市元興寺, 大阪府堺市南宋寺, 滋賀県大津市三井寺, 大津市長等神社, 大津市三尾神社, 大津市南別所西願寺, 大津市西教寺, 大津市生源寺, 大津市坂本大將軍神社でヒトエグモの生息を確認した(図 2)。他



表 1. ヒトエグモ生息調査の調査地一覧 (2004~2017年, 複数回調査地あり).

府県名	調査地	年月日	発見の有無	府県名	調査地	年月日	発見の有無
京都府	宇治田原町 高尾の神社	20041114	無	滋賀県	大津市 西教寺	20140409	発見
京都府	宇治田原町 猿丸神社	20041114	無	滋賀県	大津市 三井寺	20140409	発見
京都府	宇治市 県神社	20041230	無	滋賀県	大津市 南別所西願寺	20140409	発見
京都府	宇治市 宇治上神社	20041230	無	滋賀県	大津市 三尾神社	20150326	発見
京都府	宇治市 宇治神社	20041230	無	滋賀県	大津市 長等神社	20150326	発見
京都府	長岡京市 光明寺	20041230	無	滋賀県	大津市 三井寺	20150326	発見
京都府	長岡京市 子守勝手神社	20041230	無	滋賀県	大津市 日吉大社	20170420	無
京都府	長岡京市 長岡天満宮	20041230	無	滋賀県	大津市坂本 慈眼堂	20170420	無
京都府	八幡市 石清水八幡宮	20041230	発見	滋賀県	大津市 東照宮	20170420	無
京都府	八幡市 高良神社	20041230	無	滋賀県	大津市坂本 生源寺	20170420	発見
京都府	宇治市 伊勢田神社	20050104	無	滋賀県	大津市坂本 大将軍神社	20170420	発見
京都府	宇治市 且椋神社	20050104	無	滋賀県	大津市坂本生源寺・大将軍神社	20170716	発見
京都府	京田辺市 大住天津神社	20050104	無	大阪府	寝屋川市国松 春日神社	20050101	無
京都府	久御山町 式内壱城神社	20050104	無	大阪府	寝屋川市 国松野宮神社	20050101	無
京都府	久御山町 豊栗神社	20050104	無	大阪府	寝屋川市郡 友呂岐神社	20050101	無
京都府	久御山町 若宮八幡宮	20050104	無	大阪府	寝屋川市 式内細屋神社	20050101	無
京都府	城陽市 荒見神社	20050104	無	大阪府	寝屋川市 秦河勝の五輪塔	20050101	無
京都府	城陽市 久世神社	20050104	無	大阪府	寝屋川市 八幡神社	20050101	無
京都府	城陽市 平井神社	20050104	無	大阪府	寝屋川市 寝屋神社	20050103	無
京都府	城陽市 水主神社	20050104	無	大阪府	大阪市 四天王寺	20070108	無
京都府	城陽市 水度神社	20050104	無	大阪府	大阪市 生魂神社	20070108	無
京都府	八幡市 上津屋石田神社	20050104	無	大阪府	大阪市 天満宮	20070108	無
京都府	八幡市 奈良御園神社	20050104	無	大阪府	大阪市 大江神社・愛染堂・生霊神社	20121109	無
京都府	八幡市 若宮神社	20050104	無	大阪府	大阪市 四天王寺	20121109	無
京都府	京田辺市 佐牙神社	20050108	無	大阪府	堺市 関口神社・菅原神社・別院等	20121109	無
京都府	京田辺市 棚倉孫神社	20050108	無	大阪府	堺市 南宗寺	20121109	発見
京都府	精華町 鞍安神社	20050108	無	奈良県	奈良市 春日大社	20041205	無
京都府	宇治田原 御栗栖神社	20061125	無	奈良県	奈良市 大安寺・八幡神社	20041212	無
京都府	八幡市 石清水八幡宮	20061126	発見	奈良県	奈良市 興福寺・東大寺	20121106	無
京都府	長岡京市 楊谷寺(柳谷観音)	20070104	発見	奈良県	奈良市 元興寺	20121106	発見
京都府	長岡京市 御谷神社	20070104	無	香川県	三豊市 大興寺	20141027	無
京都府	宇治市 石福寺	20070114	無	香川県	観音寺市 観音寺	20141027	無
京都府	宇治市 宇治上神社	20070114	無	香川県	観音寺市 琴弾八幡宮	20141027	無
京都府	宇治市 許波多神社	20070114	無	香川県	琴平町 金刀比羅宮	20141028	無
京都府	宇治市 三室戸寺	20070114	無	香川県	善通寺市 善通寺	20141028	無
京都府	長岡京市 楊谷寺(柳谷観音)	20150312	発見	香川県	善通寺市 金倉寺	20141028	無
滋賀県	大津市 三井寺	20050123	発見	香川県	多度津町 道隆寺	20141028	無
滋賀県	大津市坂本 慈眼堂	20050129	無	香川県	多度津町 郷照寺	20141028	無
滋賀県	大津市坂本 求法寺	20050129	無	香川県	高松市 国分寺	20141028	無
滋賀県	大津市 東照宮	20050129	無	香川県	さぬき市 大窪寺	20141029	無
滋賀県	大津市坂本 早尾神社	20050129	無	徳島県	阿波市 法輪寺	20141029	無
滋賀県	大津市 日吉大社	20050129	無	徳島県	阿波市 十楽寺	20141029	無
滋賀県	大津市 比叡山延暦寺大講堂・戒壇院周辺	20050129	無	徳島県	上板町 安楽寺	20141029	無
滋賀県	大津市 石山寺	20061228	無	徳島県	板野町 地蔵寺	20141029	無
滋賀県	野洲市の社寺調査	20120420	無	徳島県	板野町 大日堂	20141029	無
滋賀県	近江八幡市 本願寺別院	20120510	無	徳島県	板野町 金泉寺	20141029	無
滋賀県	多賀町 多賀大社	20120510	無	徳島県	鳴門市 極楽寺	20141029	無
滋賀県	彦根市 新神社	20120510	無	徳島県	鳴門市 霊山寺	20141029	無
滋賀県	彦根市 宗安寺	20120510	無	徳島県	鳴門市 大麻比古神社	20141029	無
滋賀県	大津市 三井寺	20121025	発見	徳島県	徳島市 八阪神社	20141030	無
滋賀県	大津市 長等神社	20121025	発見	徳島県	徳島市 御嶽神社	20141030	無
滋賀県	大津市坂本 慈眼堂	20121108	無	徳島県	徳島市 諏訪神社	20141030	無
滋賀県	大津市 西教寺	20121108	発見	徳島県	徳島市 天正寺	20141030	無
滋賀県	大津市 比叡山延暦寺大講堂・戒壇院周辺	20121108	無	徳島県	徳島市 推宮神社	20141030	無
滋賀県	大津市 三尾神社	20140409	発見	徳島県	徳島市 八幡神社	20141030	無
滋賀県	大津市 長等神社	20140409	発見	徳島県	徳島市 天満宮	20141030	無

の調査地では生息を確認できなかった。生息を期待していた大阪市の四天王寺周辺の社寺, 四国八十八か所霊場札所となっている寺院, 滋賀県湖東地域の社寺では生息を確認できなかった。

## (2) 発見場所と発見した個体

本調査では, 屋内調査は実施していない。ヒトエグモが生息していた場所は, 屋外の木造建造物の柱や板の隙間, 屋根瓦の隙間, 石垣や石燈籠, 供養塔など石造建造物の隙間, 大木の樹皮下であった(図3-4)。滋賀県大津市生源寺ではご住職のご好意で古い瓦を保管してある場所へ案内

表 2. ヒトエグモの生息を確認した調査地における発見状況 (確認個体数・採集数・飼育数).

番号	調査地	府県名	市町村名	調査日	確認した個体			採集した個体				飼育した個体			
					成体	幼体*	2 齢	成体雌	成体雄	幼体*	2 齢	成体雌	成体雄	幼体*	2 齢
1	楊谷寺 (柳谷観音)	京都府	長岡京市	2007年1月4日	2	1				1				1	
				2015年3月12日	1	3									
2	石清水八幡宮	京都府	八幡市	2004年12月30日	1	1									
				2006年11月26日	2	2									
3	元興寺	奈良県	奈良市	2012年11月6日	3										
4	南宗寺	大阪府	堺市	2012年11月9日	1										
5	三井寺	滋賀県	大津市	2005年1月23日	1	2									
				2012年10月25日	9			2				2			
				2014年4月9日	7	2									
				2015年3月26日	3	1									
6	長等神社	滋賀県	大津市	2012年10月25日	8	1		2		1		2		1	
				2014年4月9日	13	2									
				2015年3月26日	10	6	3		1	3	3		1		
7	三尾神社	滋賀県	大津市	2014年4月9日	13	1	1	2							
				2015年3月26日	9	1									
8	南別所西願寺	滋賀県	大津市	2014年4月9日	2		1								
9	西教寺	滋賀県	大津市	2012年11月8日	1	1	1	1		1		1		1	
				2014年4月9日	6	2									
10	生源寺	滋賀県	大津市	2017年4月20日	6	5	2	1	2	3	2	1	2	3	2
11	大将軍神社	滋賀県	大津市	2017年7月16日	7	2		1	1			1	1		
合 計					105	33	8	9	4	9	5	7	4	6	2

\*幼体は、3 齢以上の幼体で齢数不明の個体を意味する。

していただき多くの個体が生息していることを確認した (図 5)。

確認した個体は、表 2 の通りである。成長段階の異なる個体 146 頭 (雌雄不明の成体 105 頭, 3 齢以上の幼体 (齢数不明) 33 頭, 2 齢幼体 8 頭, 合計 146 頭) であった。採集した個体は 27 頭 (成体雌 9 頭, 成体雄 4 頭, 3 齢以上の幼体 (齢数不明) 9 頭, 2 齢幼体 5 頭, 合計 27 頭) であった (図 6-7)。採集物は標本として保存するとともに、成体雌 7 頭, 成体雄 4 頭, 3 齢以上の幼体 (齢数不明) 6 頭, 2 齢幼体 2 頭の飼育を試みた。

#### 4. 考察

本調査でヒトエグモの生息を確認した地域は、奈良県奈良市、大阪府堺市、京都府長岡京市、京都府八幡市、滋賀県大津市の 4 府県 5 市に所在する神社や寺院 11 か所であった。生息を確認した地は、いずれも歴史の古い地であり街道沿いには古い神社や寺院、旧家が多く見られた。発見地に隣接する神社や寺院、旧家でも生息しているものと思われた。

滋賀県の生息状況については、河瀬 (2017) が、2017 年 1 月 6 日甲賀市水口町で雄個体が採集されたことや生息情報についての参考記録を報告している。本調査では湖東地域の神社や寺院での生息は確認できなかったが、今後調査を拡大して生息を確認したいと考えている。

関西圏以外の地域でも調査を試みたが発見には至らなかった。ヒトエグモの生息分布は、過去の生息確認の情報を考え合わせてみても離散的な分布状況を示しており人為的な拡散をうかがわせる。このことは全国レベルでの調査結果を待たないと解明されないわけだが、生息情報のある地域以外でも生息の可能性があり今後の発見に期待したい。

ヒトエグモの探索に当たっては、藤野 (2017) でも指摘したとおり、ヒトエグモは「屋内性のクモである」という通説を捨て、屋外の石造建造物や木造建造物、大木の樹皮等を積極的に探索することにより成果が得られると確信している。注意深く探していけば今後も各地で生息が確認されると期待している。

ヒトエグモの生息分布については、生息環境の精査も重要である。筆者の京都市内での調査結果から、ヒトエグモは山間部の神社や寺院では発見できなかった。滋賀県大津市の場合でも湖岸に近い神社や寺院での生息は確認したが、山間部の比叡山延暦寺根本中堂付近では発見できなかった。気温の低い地域では生活できないのかも知れない。今後の課題である。



図 2. ヒトエグモの生息確認地.

## 5. おわりに

ヒトエグモに関する評価の一つとしてレッドリスト掲載を例に挙げると「環境省版レッドリスト 2017: 掲載なし, 京都府レッドリスト 2015: 絶滅危惧種, 大阪府レッドリスト 2014: 準絶滅危惧種, 堺市レッドリスト 2015: B ランク」などと評価されカテゴリ選定されている。

選定理由などの解説では、「全クモ類中最も扁平な形態をしている。古い神社や寺院, 旧家の屋内で発見される屋内性のクモであるが屋外の石造物の隙間や樹皮下でも発見されることがある。日本と韓国に分布するが, 日本では分布域が限られる。過去に発見例が少なく, 採集例は極めて





図 3. 石燈籠の隙間に潜む個体.



図 4. 追い出した成体雌.



図 5. 瓦積みの上の成体雌の死骸.



図 6. 採集した成体雌.



図 7. 計測用シャーレに移した成体雄 (左) と幼体 (右).

少ない。生態や生活史は不明である」などと記載されている。

本調査でヒトエグモの生息を確認した地域は、奈良県奈良市、大阪府堺市、京都府長岡京市、京都府八幡市、滋賀県大津市の4府県5市に所在する神社や寺院11か所であった。京都市内での調査では、市内全区で多くの個体が生息していることが確認されている(藤野 2017)。筆者は、調査の際にヒトエグモの写真を見せて調査方法を説明させていただくのだが、「このクモなら本殿、本堂などでよく見かけますよ。普通にいますよ」という話をよく聞いた。本調査及び京都市内での調査結果から考えて、ヒトエグモは特に希少な種ではないように思える。現在は情報不足の地域が多いが、今後本種についての評価の見直しが必要となろう。本種の保護については、生息分布域が限定的であるためその方策を検討していく必要がある。

今回、筆者が調査した全ての地域での調査結果を掲載したが、単独或いは二人という少人数での調査であり、調査地も限られ、調査場所も屋外の石造建造物等に限定した結果である。未発見に終わった調査地でも精査すれば発見の可能性があると思われる。今後も情報不足の地でヒトエグモの生息調査をしたいと考えている。

### 謝辞

本調査にあたっては、調査地の神社、寺院の皆様にご協力をいただきました。ここに感謝申し上げます。なお、本研究は、独立行政法人日本学術振興会より平成16年度科学研究費補助金(奨励研究:研究課題/領域番号 16918020)の助成を受け、「ヒトエグモの生息分布と生活史の解明」のテーマで行った研究の一部である。

### 参考文献

- 大阪府環境農林水産部みどり推進室みどり企画課(編) 2014. 大阪府レッドリスト 2014.
- 小野展嗣(編) 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会.
- 河瀬直幹 2017. 滋賀県におけるヒトエグモ発見と新聞等を通じた市民からの情報収集. くものいと, 50: 52-55.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編) 2017. 環境省レッドリスト 2017.
- 京都府自然環境保全課(編) 2015. 京都府レッドデータブック 2015.
- 堺市環境局環境保全部環境共生課(編) 2015. 堺市レッドリスト 2015.
- 藤野義人 2017. 京都府京都市におけるヒトエグモの生息分布調査. くものいと, 50: 48-51.



## クモの卵囊の中にいた毛虫

船 曳 和 代

2014年8月10日、散歩中に小川に架けられた鉄板の縁に、クモの卵囊状のものがぶら下がっているのを見つけた。長さは約2cm、直径は太いところで1.5cmほどある。表面は白茶色で、みかんを入れたネットのようにあちこち出っ張っている。手に取って開いてみると、中は7~8個の丸い袋の小部屋に分かれていた。袋の中には卵から出囊間近のものまで、成長段階の異なる子グモがそれぞれ詰め込まれていた。すでに出囊したあとらしく、脱皮殻が残されている部屋もあった。

ちょっと見かけない形だったので製作者に興味があったがそれはさておき、卵囊の中にはいろいろな種類の虫がいた。中でも体長約3mm、こげ茶色と黄色の縞模様の毛虫に特別な興味湧いた。卵の中にもぐり込んでいたから、クモの卵を食べているに違いないと思った。以前、クモの卵に寄生するハエの幼虫(蛆)を育てたことがある。これは蛆ではないからハエではない。蛾の幼虫の一種が、クモの卵を食べるとい話をどこかで読んだか聞いたかした記憶があったから、それに違いないと短絡的に決めつけ、どんな色あざやかな蛾が現れるのかと、わくわくしながら育て始めた。

以前育てたハエの場合、幼虫の期間は約1週間、蛹になって10日程で成虫になった。このことから推測すると、幼虫は少なくとも8月中には蛹になり、9月には成虫が出てくるはずだ。

ところがこの毛虫は脱皮して体は少しずつ大きくなっているものの、一向に蛹にならない。9月に入っても毛虫のまま。クモの卵は次々に孵化して子グモに姿を変え、出囊してしまった。毛虫は餌がなくてひもじいのか、うろうろと動き回る。卵囊をかじった痕らしきものも見つかった。自然状態なら別の卵を求めて移動するのかもしれない。幼虫の命は私の肩にかかっていると思うと責任を感じる。同じような卵囊はもう見つからないので、かわりにオオヒメグモの卵囊を入れてやった。虫はもぐり込んで卵に食らいついているように見えた。食べていると判断したが、オオヒメグモの卵が子グモになって出ていっても、まだ蛹にならない。もうお手上げ状態で成り行きにまかせることにした。

10月になるとエサを探しているのか、蛹になる場所を探しているのか、活発に動き回る。敷いているキッチンペーパーの下にもぐり込むこともある。ひょっとして土中で蛹になるタイプかもしれない、と思って土を入れてやったが見向きもしない。しばらくすると卵囊の中から出て来なくなったので、そのまま越冬させることにした。

翌年の2月末、久しぶりに見ると、幼虫はでっぷりと丸みを帯びた形にかわっていた。つついても動かないものの、柔らかく、生きていたということが感じられた。3月末に見ると、全体に黒ずみカチカチになっていた。何か管理に不備があり、干からびて死んでしまったのかも。興味を持って見ていた物語の結末を見逃したようで、残念で仕方がない。捨てようと思ったが、奇跡が起こって生き返るかもしれないと思い、しばらく待つことにした。

4月1日、再び開けてみると、なんと黒ずんでいた背中が縦に裂け、菱形に開いた部分から乳白色の瑞々しい皮膚の一部がのぞいている。なんと蛹になっていたのだ。待望の成虫の姿が見られると思うと自然に笑みがこぼれた。

およそ20日後、乳白色の部分はオレンジ、黒、白の入り混じった模様にかわっていた。甲虫の背中のように見える。狭い場所で脱皮が上手くいかなかったのか周りに殻がついたままだ。ピンセットで取り除いてやると、甲虫らしきものがポロンと現れた。見たところ、脚も口も触角もない。なんで?と思いながら眺めていたら、ふと気がついた。これが本当の蛹なのだ。

数日後、待望の成虫が誕生した。体長はおよそ3mm、オレンジ色の地に黒と白の斑紋が散るきれいな虫だ。なんだかどこかで見たことがあるが思い出せない。友人の榎元智子さんに写真を送ると、ヒメマルカツオブシムシではないかとの返事が返ってきた。インターネットで検索すると、そのものずばりの写真が出ていた。育てていた毛虫も幼虫の写真とばっちり一致した。

2014年の8月から翌年の4月まで、どんな美しい蛾が現れるのかとわくわくしながら大切に育ててきた虫は、セーターやコートを喰い荒らして台無しにしてしまう憎き害虫だったのだ。毛虫



図 1. ヒメマルカツオブシムシ. 上, 幼虫; 中, 背中が縦に裂けたところ; 下, 成虫.



図 2. ヒカリアシナガグモの卵囊.

はおそらく卵というよりも、卵囊やクモの脱皮殻を食べていたのだろう。時間を無駄にしたような気もするが、楽しんだから、まあよしとしよう。

ちなみに卵囊を作ったと思われるクモの写真を谷川明男氏に送り、同定してもらったところ、ヒカリアシナガグモとのことだった。卵囊についてはいろいろな形があるようなので、もう少し調べて別の機会に書きたいと思う。



## セアカゴケグモの駆除を楽しくしよう

黒田 あき

箕面市に引っ越して5年間、家のすぐそばにある牧落公園の側溝に生息するセアカゴケグモを毎年駆除してきました。2016年は、体調不順もあり駆除していません。初めて駆除した時には30匹近いセアカゴケグモが生息していました。側溝は、約4mで深さ25cm、幅25cm程度の短く小さなものです。毎年ただ駆除するだけの目的であったために、アルコールにポイポイ浸けたり、棒で潰したりしていました。

家庭ごみの清掃業者以外には車がほとんど通らない場所であることから、セアカゴケグモは清掃車によって運ばれて来ていると予測していました。もしも、駆除を継続しても再び採集することができるのであれば、清掃車が分布を広めているのではと考えていました。

年々駆除とともに数が減ってはいるものの、去年も採集できました。そこで、楽しく数が分かる方法はないかと考えて、手芸用品のUVレジンという紫外線で固まるアクセサリー用の溶剤とシリコン容器を用意して、採集したセアカゴケグモをレジンを入れたシリコン容器にポイポイ浸けました。セアカゴケグモはレジんに浸けるとすぐに成仏されました。

レジンには透明なものもあるのですが、たまたま薄く白い色の付いたものしか手元になかったので、それを使用しました。成仏された日は、セアカゴケグモの色落ちはなく、足をピンセットできれいに整えて太陽光で10分間ほど干してレジンをしっかり固まらせて完成しました(2017/8/4採集・作製、図1)。

コースターとして使おうと思っていましたが、上から物を置くとセアカゴケグモのお腹がつぶれることがわかりました。しかし、雌雄も良く見れば分かります。表からも裏からも見ることができるうえに、1枚に平たく納められているので数も数えやすく、人にも見せやすいし、持ち運びもとても楽です。

今回作ったコースターを何人かの人に見せましたが、セアカゴケグモは昔のニュースで知ったという意見が最多で、身近な生物であるという認識を持っている人はいませんでした。また、見た目や大きさだけでは他のクモとの違いが判別できないとの意見がありました。

来年は、色落ちを防ぐためにサランラップの間にはさむ、スマホのガラス保護シートで潰れないようにする等、より分かりやすい方法を工夫して、実物が一般の人たちにも見て分かるようにしようと思います。とても簡単にできるので、サンプルとしての利用にもおすすめします。完全駆除が不可能な理由、拡散経路の追求をしつつ、なるべく格好良く美しい姿を残せるようにしていきます。

ただ、外来種はセアカゴケグモだけではないのに、セアカゴケグモだけが駆除対象にされていることには疑問に感じます。矛盾しているとは思いますが、セアカゴケグモがとても可哀想です。



図1. UVレジンに封入したセアカゴケグモ。

## 「山門水源の森 現地交流会」感想

黒田 あき

2017年8月5日の「山門水源の森 現地交流会」に協力者として参加しました。体調不良もあったので、お金がない、歩けない、迷惑がかかるかも知れないと悩みに悩んだのですが、ヒッチハイクで行きました。運良く2台の車で現地入りできました。

吉田真先生の講演は終了していましたが、観察会の現地への移動には間に合っただけで、バスに乗って山門へ。体調不良のため、山には登らない網標本作りのグループに参加しました。体力もなく、船曳先生の参加者への説明を聞いたり、参加者の方々の作られた標本のお守りをしたり、集合写真を撮影する役だけで終わってしまいました。

多くの参加者が来られており、山門水源を守る会の方々の汗のじむ努力がここまで人を動かすのだと、感銘を受けると同時に自分が一助にも及ばぬことも思いました。

帰りのヒッチハイクでは、参加者のお一人に乗せていただくことができ、何故参加されたのかを聞きました。その理由は、ご本人は陶芸家で、クモの巣を陶器に描きたいと思われたとのことでした。作品になっているのでしょうか。気になります。

ずいぶん南の方まで乗せていただき、コンビニで降ろしていただき、2台目に乗せてくださった方に家まで送っていただきました。この方は、転勤で滋賀県草津市に来ておられて、土日は全て滋賀県を漫喫することをしておられ、この日は、釣りの帰りだったとのことでしたが、大阪まで行って万博の観覧車に感動され、すごく楽しいドライブだったと感謝されました。

山門ではクモハンドブックを受け取り、家でじっくり見せていただいて、伊藤様が関西クモ研究会へ入会されて、たったの数年でこのような立派な冊子を作られたことに驚きました。しかし、この冊子はフィールドでクモの素人が見るには専門的であって、やや難しいと感じました。無料で配布しておられましたが、その内容は市販されている本と遜色ないものです。ただ、単純にアイウエオ順では検索できないので、観察会の現場で照らし合わせが難しく、身近なクモの名前も調べにくいと思いました。東京蜘蛛談話会の「クモ基本60」のような作りだと入り口が広がっただろうと色々な気付きがありました。もっとも、到底自分には成し得ないことをされているのに意見するのもどうかとは思いますが、現冊子に加えていただけるよう平易な資料を作成しようと思っています。今後、現地のお役にたてば幸いに思います。

「クモのため、ヒッチハイクで山門へ」 関西クモ研究会 ハイイク部 (^^)

---

## 箕面公園滝道採集記録

黒田 あき

箕面昆虫館のイベントとして「親子こんちゅう観察会」(2017年8月6日, 18:00-20:45, 場所: 瀧安寺前広場) がありました。ライトトラップでの採集方法を見てみたいと思って行って参りました。

明るい時に、飛んでいる生きたハンミョウを初めて見ることで感動したのち、帰り際にオオゴキブリがライトに関係のない場所に飛来しているのを見つけて、拾って持ち帰り、飼育しています。以前、オオゴキブリを飼っていた時に鳴き声を聞いたことがあるので、また聞きたいと思っていますが、なかなか鳴きません。2日ほど鳴いたような変な音がりましたが、ミュツミュツと鳴く可愛い声をもう一度聞きたいと思っています。

この日のイベントは、夜間とは言え、夏日なので暗くなる前には終了。ライトトラップには、



ガとカメムシが来ていました。気になったことは、参加者の中に、故池田勇介さんのお父様が発案した吸虫管を使用している子どもがいたことです。直接吸い込むことによる病例の問題がある今、少し心配に思いました。

この日、私は都合により車椅子で参加していたのですが、ヘルパーさんの介助もあって、押す側のペース配分が歩行よりもスゴく速く、採集するのに後戻りするようお願いしてみたりもしたものの、十分な採集はできませんでした。

採集したクモの同定結果は次のとおりです。(a: 成体, y: 幼体)

ヒラタグモ 1♀y	オオシロカネグモ 2♀a
オオヒメグモ 1♀a	ギンナガゴミグモ 5♀a
ツリガネヒメグモ 1♂a	ギンメッキゴミグモ 1♀a, 3♂y
ニホンヒメグモ 1♀a	コゲチャオニグモ 1♂y
ミナミホシヒメグモ 1♀a	ワキグロサツマノミダマシ 2♀a, 1♂a
シロカネイソウロウグモ 1y	ズグロオニグモ 1♀a
チリイソウロウグモ 1♂a	ホシジロトンビグモ 1♀y
ヒメグモ類 sp. 2♂y, 1♀y	イツツグモ 1♂y

## 大阪南港中央公園採集記録

黒田 あき

2017年8月12日に、ヒアリを目的に大阪南港へ行きました。この少し前に、滋賀県の山門に行く時に、ヒッチハイクで拾ってくださった方に今回も連れて行っていただきました。私自身の歩行に不安があるので、採集は30分ももたず、クモも採集しましたが大変少ないです。

今回は、目的がヒアリだったため、ジョロウグモ等も見かけたものの素通りしていましたが、それよりも驚いたのがアカテガニでした。河川と海の間の淡水域に生息するカニです。沢山見かけました。家で調べてみると、アジア諸国では高級料理に出る大変美味しいカニだと知り、次回は持ち帰り食べようと思います。

ヒアリは残念ながら（というより、幸いなことに）見つけることはできず、採集したアリの同定にも苦労しました。ただ、公園内は自然豊かな印象でしたので、クモ採集には最適だと思います。季節に応じて海沿いの場所として調査すると面白い結果が出るのではないかと思います。

この日、採集したクモとアリの同定結果は次のとおりです。

ナガコガネグモ ♀成体  
シロカネイソウロウグモ ♂成体  
シマゴミグモ ♀成体  
クロヤマアリ 3個体  
アシナガアリ類 sp. 5個体

## ハツリグモの住居について

黒田 あき ・ 黒田 誠

野外で観察するハツリグモは、枯れ葉を住居にしており、この枯葉はふつう丸まっています。私は、クモが枯れ葉を丸めることは容易ではないのではないかという疑問を以前から持っており、2017年10月から飼育観察を始めました。ここでは、2018年1月18日までの観察内容を紹介します。なお、飼育はその後も継続中です。

飼育観察に用いたハツリグモは、2017年10月1日に奈良県にある近畿大学で採集した雌の幼体で、採集直後は、居住していた葉とともに採集用のフィルムケースに入れた状態で、20日間ほど放置したままでした。観察を始めるにあたって、果実酒の瓶（直径約14cm、高さ約17cm）の底に深さ3cmほどの土を入れて、3種類の植物（自宅の庭に生えているアイビーを枝から切ったもの、自宅前の道端に生えていたシソのような葉の小さな木を根ごと掘り採ったもの、道端に生えていたタンポポのような軟らかく長い葉の植物を根から掘り採ったもの）を植えました。次に、クモの住居の素材として、完全な枯れ葉、新鮮な緑の葉、その中間の葉、さらに、それまでそのクモが住居として使っていた葉を土の上へ置き、瓶の中にクモを入れました。

クモは最初、土の上に置かれていた緑の葉で完全な住居を造りました。その住居を取り外してみたら、ほどなく脱皮し、その後、植えられていたシソのような植物の葉を使って新たな完全な住居を造りました。直接目撃していませんが、クモ自身が枝から葉を切り取ったものと思われる。これらの報告を2017年12月の関西クモ研究会の例会で発表したところ、折り紙を使った実験があることを聞きましたので、シソのような葉の住居を取り外し、それは土の上に残して、画用紙、レースの布、折り紙を入れてみました。すると、クモは画用紙を選んで住居を造りました。ただし、その住居は葉がきちんと巻かれておらず、不完全なものでした。

この間に、折り紙を使うハツリグモの報文がキシダイアにあると思い、池田博明先生へ連絡しましたところ、キシダイアにはそのような報文はなく、参考にとオーストラリアに生息するハツリグモと同様の習性を持つクモ *Phonognatha graeffei* (コガネグモ科) の文献 (Thirunavukarasu et al. 1996) を送っていただきました。この文献によると、このクモは葉に噛みつくことによって、葉の湿度を確認している可能性があるとのこと。そこで、画用紙で造られた不完全な住居にスポイトを使って水を垂らしてみました。すると、クモはその後、しっかりと巻かれた完全な住居に仕上げました。

さらに、このオーストラリアのクモの研究では、ユーカリの湿った緑色の葉と乾いた茶色の葉のどちらをクモが選ぶかが実験によって確かめられています。それによると、実験に用いられたクモの約7割が緑色の葉を使用していたとの記述がありました。そこで、ユーカリの苗、アジサイの苗、クリスマスローズの苗を購入し、手狭であった飼育瓶をもう少し大きいもの（直径約18cm、高さ約26cm）に変更し、その瓶にこれらの苗を入れ、画用紙の住居を取り外してクモを引っ越しさせました。入れ換えてすぐ、その日のうちに、クモはユーカリの茶色の葉を住居に選びました。その葉は、枯れ葉に近い状態のもので、それを使って不完全な住居を造りました。

ここまでの観察から考察してみると、これまで漠然と、ハツリグモは最初から枯れ葉を使って住居を造っていると考えられていましたが、じつは、地面に落ちている枯葉ではなく、生葉を切り取って住居にすることも少なくないようです。地面に落ちている葉を使うと、外敵に襲われるリスクが高まるかもしれませんし、また、その葉に病原菌が付着しているかもしれません。それよりは、生えている葉を切り取って住居に使う方が安全であり、かつ、軟らかい生葉であるために巻きやすく、そのため使用する糸の量も少なく済むかもしれません。実際に、上記の私の観察でも、枝から葉を切り取って使用することが2回観察されています。しかし、地面に置いた画用紙を使うこともあったので、落ち葉を使わないというわけではありません。一定の湿度が葉に加われば完全な住居を造ることから、雨が降れば落ち葉を使用する可能性もあるのだと思います。

また、今回の飼育観察とは別に、ハツリグモが1回使った住居を再利用するのかどうかを確かめるために、5年程前の関西クモ研究会の採集会の折に皆様からいただいたハツリグモを持ち帰り、家の軒下の地面に30cm程の間隔を開けて、クモが住居に入ったままの状態置いてみたこ

とがあります。この観察では、10匹中3匹が同じ住居を再利用していました。ハツリグモは、造網に際して、最初に、葉を吊るす上部に糸を張り巡らし、続いて、地面と葉を吊るす場所を繋ぐ糸を垂直に張り、その後、住居となる葉を吊るし、枠糸から円網へと仕上げていきます。どのような葉を住居とする葉として選ぶかは、その時の状況によって変わると考えられ、すでに使った同じものが適切であればそれを選ぶし、そうでなければ、より適切な葉を選びなおすことによって、最適で完全な住居を造っているように思います。

造網作業は1日で完了することではなく、完成させるまでに3日ほどを要していることが今回の観察で分かりました。また、完成後は住居をそのままの状態にして、網を張りなおすことも分かりました。住居となる葉の選択は、環境状況に応じており、湿度や乾燥その他の要因により、状況に応じて不完全な住居を完全なものに改変していると考えられます。

なお、オーストラリアの実験では茶色い葉を不完全なままの状態、緑色の葉の住居につけ直して完全な住居を作成しているとの記述がありましたが、私の飼育下では、茶色い葉を不完全から完全な住居へと丸めようとしていました。

最後に、今回は台風の影響もあり1個体しか採集できず、葉を住居に使うクモ全体を対象に多数の実験結果を得ることが必要だと考えています。1個体だけの観察ではありますが、引き続き、思いつくことをいろいろと試してみて、観察方法も工夫をしていきたいと思っています。徹夜ができなかったために、残念ながら、まだ葉を切り落とす作業や住居の構築作業は観察できていません。この観察には、多くの協力を得て、皆様には本当に感謝しております。

#### 謝辞

採集にご協力いただいた皆様、及び、ご教示くださった皆様：加村隆英先生、西川喜朗先生、新海明先生、池田博明先生、関西クモ研究会の皆様。また、田尻哲也氏には、この飼育に関連して、台風の後に箕面と京都の山崎での採集とオーストラリアの文献の訳出をお手伝いいただきました。ありがとうございました。

#### 参考文献

Thirunavukarasu, P., Nicolson, M. & Elgar, M. A. 1996. Leaf selection by the leaf-curling spider *Phonognatha graeffei* (Keyserling) (Araneioidea: Araneae). Bull. Br. Arachnol. Soc., 10: 187–189.



## クモの飼育方法

黒田 あき

クモの飼育について、できる限り家庭にあるもの、身近なものを使う方法を紹介します。

#### 用意するもの

##### ① 餌捕獲用の容器 (図1)

スパイスの使用済み瓶、フィルムケース、マヨネーズの容器(底を切ったもの)など。クモの採集時と同じように昆虫を捕獲します。1容器に1匹がクモに与えやすいです。

##### ② 水スプレー (図2)

使用しなくなった洗剤や消臭剤のスプレーの上部を水の入ったコップに差し込んで使います。これで適度に水分を補給します。ただ、通常はほとんど補給する必要はないほどに湿度は保たれています。

##### ③ 果実酒瓶 (梅酒・梅干し用) (図3)

飼育容器本体です。クモの種類によって、大きな網を張るものは大きめだと良いです。

##### ④ 照明 (図4)

電気スタンド。できれば左右上下から照らせるもので、固定して置けるもの。糸が見やすい



位置に自由に方向が変えられると便利です。日中にも夜間にも観察ができます。

⑤ 台所水切りネット (図 5)

これは果実酒瓶の注ぎ口に押し込みます。クモや昆虫の脱走防止と換気のためです。果実酒瓶の中には、土と観葉植物と枝木、雑草を入れてあります。網を張りやすいようにする程度に合わせて入れる量を調整してください。

餌の与えかた

⑤のネットを外して、果実酒瓶の注ぎ口より①で採集した昆虫を落として、またネットをはめます (図 6-7)。もうひとつの方法として、土の代わりに生ゴミを入れておく方法もあります。餌は生ゴミから発生するハエに頼ることができます。餌用コオロギを購入する方法もあります。

なお、果実酒瓶は湿度によってガラス面が曇ることがあります。その場合は室温を上げる必要があります。また、植物や土を入れる時にガラス面が汚れることもあるので、ガラス面をティッシュ等で拭くなどして見やすくしてみてください。

このクモの飼育容器は、ちょっとしたインテリアにもなっており、食卓にあってもクモがいるのに気付かない人が多いです。昆虫やクモに苦手意識がある人たちも、最初に網の美しさに感動し、それによってクモにも恐れを抱かなくなり、「気持ちが大きく変わった」という感想を持つことが多いです。家庭や学校での飼育には最適な方法だと思います。



図 1. 餌捕獲用の容器類。図 2. 水分補給用のスプレー。図 3. 飼育容器本体として使う果実酒瓶。図 4. 照明器具。図 5. 飼育容器の口に押し込むための水切りネット。図 6. 飼育容器の口から餌を投入しているところ。図 7. 飼育容器の口に水切りネットを押し込んだところ。

## 滋賀・京都のクモ類 (2012)

吉田 真

## はじめに

2012年に滋賀県と京都府で採集したクモ類のうち、山門湿原（滋賀県北部）以外の地域で採集したクモ類について報告する。同定にご協力いただいた、谷川明男氏、田中穂積氏、西川喜朗氏、緒方清人氏に厚く御礼申し上げる。

## 滋賀・京都クモ類リスト (2012)

♀：メス成体，♂：オス成体，y：幼体。数字は個体数である。\*は新記録種，☆は成体だが同定できなかった種である。

## 滋賀県

## 大津市葛川中学校裏 (2012.4.28)

N35°14'05" E135°51'45" 標高 340 m

タナグモ科	
コクサグモ	y1
キシダグモ科	
アオグロハシリグモ	y1
アズマキシダグモ	y1
コモリグモ科	
<i>Pirata</i> sp.	♂y1, y29
サラグモ科	
クスマサラグモ	♀1
ザラアカムネグモ	♂1
ムネグロサラグモ	♂1, ♀1
ユノハマサラグモ	♀2, y2
*カンサイオオイヤマケシグモ	♀1
☆ <i>Nippononeta</i> sp.	♀1
ヒメグモ科	
スネグロオチバヒメグモ	♂y2
ムナボシヒメグモ	y1
アシナガグモ科	
アシナガグモ	y1
コガネグモ科	
カラフトオニグモ	y2
シボグモ科	
シボグモ科	y1
アシダカグモ科	
コアシダカグモ	y5
カニグモ科	
<i>Xysticus</i> sp.	♂y1, y1
ネコグモ科	
<i>Phrurolithus</i> sp.	y1
ハエトリグモ科	
アメイロハエトリ	♂1
キレワハエトリ	♂1

## 大津市坂下町旧道 (2012.4.28)

N35°12'30" E135°51'20" 標高 420 m

ウズグモ科	
マネキグモ	y1

キシダグモ科	
イオウイロハシリグモ	y2
サラグモ科	
クスマサラグモ	♂2, ♀4
ザラアカムネグモ	♀1
デーニツツサラグモ	♂1
ムネグロサラグモ	y1
ユノハマサラグモ	♂1, ♀5, y2
ヒメグモ科	
アシブトヒメグモ	y1
カニミジグモ	♀1
コアカクロミジグモ	♂y1
スネグロオチバヒメグモ	y1
アシナガグモ科	
ウロコアシナガグモ	y5
シナノアシナガグモ	y2
メガネドヨウグモ	♂1, y1
コガネグモ科	
<i>Araniella</i> sp.	y2
<i>Neoscona</i> sp.	y1
シボグモ科	
シボグモ	y1
イツツグモ科	
イツツグモ	♀1
エビグモ科	
アサヒエビグモ	y4
キエビグモ	y1
カニグモ科	
アマギエビスグモ	y1
コハナグモ	y3
チクニエビスグモ	y2
ハナグモ	y1
<i>Xysticus</i> sp.	y1
フクログモ科	
ムナアカフクログモ	y1
ハエトリグモ科	
デーニツツハエトリ	♂1
<i>Mendoza</i> sp.	y1
<i>Phintella</i> sp.	y4
<i>Rhene</i> sp.	y1

## 大津市坂下足尾谷 (2012.4.28)

N35°12'40" E135°51'10" 標高 420 m

キシダグモ科	
アズマキシダグモ	♂y1
コモリグモ科	
ヤマハリゲコモリグモ	♂1, ♀3, ♂y1
<i>Pirata</i> sp.	y1
サラグモ科	
クスマサラグモ	♀1, ♂y1
ムネグロサラグモ	♀1, ♂y1
ユノハマサラグモ	♀7
ヒメグモ科	
バラギヒメグモ	♂y1, y1
ムナボシヒメグモ	y1
アシナガグモ科	
ウロコアシナガグモ	y1
コシロカネグモ	y1
コガネグモ科	
カラフトオニグモ	y2
ヨツデゴミグモ	y4
<i>Araneilla</i> sp.	♂y1
カニグモ科	
アマギエビスグモ	♂1, ♀7
コハナグモ	y2
ワカバグモ	y1
ハエトリグモ科	
*ヤマジハエトリ	♀1

## 大津市葛谷 (2012.6.15)

N35°11'35" E135°50'35" 標高 370 m

マシラグモ科	
☆Gen. sp.	♀1
ナミハグモ科	
カチドキナミハグモ	y1
コモリグモ科	
<i>Pirata</i> sp.	y19
サラグモ科	
ザラアカムネグモ	♀2
デーニッツサラグモ	♀1
ヒロテゴマグモ	♀1
ホラヒメグモ科	
コホラヒメグモ	♂1, ♀5, ♂y2, y1
アシダカグモ科	
コアシダカグモ	y4
ハエトリグモ科	
アメイロハエトリ	♂1
デーニッツハエトリ	y1
ネオンハエトリ	♂1, y1

## 高島市安曇川 (2012.10.27)

N35°21'0" E135°55'0" 標高 250 m

キシダグモ科	
イオウイロハシリグモ	y22
コモリグモ科	
*キシベコモリグモ	♀1
フジイコモリグモ	♂1
<i>Pirata</i> sp.	y1
サラグモ科	
クロナンキングモ	♂1, ♀2

*スソグロサラグモ	y26
ヌカグモ	♂1
<i>Strandella</i> sp.	y1
アシナガグモ科	
アシナガグモ	y18
ウロコアシナガグモ	y3
ヤサガタアシナガグモ	y1
コガネグモ科	
カラフトオニグモ	y1
シロスジシヨウジヨウグモ	y4
<i>Argiope</i> sp.	y3
コマチグモ科	
<i>Cheiracanthium</i> sp.	y3
エビグモ科	
アサヒエビグモ	y25
キンイロエビグモ	y1
カニグモ科	
コハナグモ	y16
ハナグモ	♂3, y30
ワカバグモ	y8
<i>Xysticus</i> sp.	y1
フクログモ科	
<i>Clubiona</i> sp.	y2
ハエトリグモ科	
ネコハエトリ	y4
<i>Mendoza</i> sp.	y1
<i>Pintella</i> sp.	y1

## 高島市朽木スキー場 (2012.10.27)

N35°19'50" E135°55'50" 標高 440 m

ヤチグモ科	
カミガタヤチグモ	♂1
ヒメヤチグモ	♀1
ヨゴヤマヤチグモ	♀1
キシダグモ科	
イオウイロハシリグモ	y10
コモリグモ科	
<i>Pirata</i> sp.	♂y1, y2
サラグモ科	
アサカワゴマグモ	♀1
ザラアカムネグモ	♂1
ツリサラグモ	♂y1
シバサラグモ	♂y5, y2
ユノハマサラグモ	y5
ヒメグモ科	
カニミジグモ	♂1
ヤリグモ	♀1, ♂y1
アシナガグモ科	
ウロコアシナガグモ	y2
オオクマヒメドヨウグモ	y1
コガネグモ科	
サガオニグモ	y1
ヤマトカナエグモ	y1
ヨツデゴミグモ	♂y5, y9
コマチグモ科	
アカスジコマチグモ	y1
シボグモ科	
シボグモ	y1



エビグモ科	
アサヒエビグモ	y3
カニグモ科	
ワカバグモ	y5
<i>Xysticus</i> sp.	y3
フクログモ科	
<i>Clubiona</i> sp.	y5
ネコグモ科	
ネコグモ	y1
ハエトリグモ科	
デーニッツハエトリ	♂2, ♀1

## 京都府

修学院坪江町 (2012.1.25)  
N35°3'0" E135°48'0" 標高 80 m

ヤチグモ科	
シモフリヤチグモ	♂1

修学院坪江町 (2012.2.19)

ヒメグモ科	
*シロホシヒメグモ	♂1

国際会館駅周辺 (2012.5.20)  
N35°3'45" E135°47'10" 標高 80 m

ユウレイグモ科	
ユウレイグモ	♂y1, y1
ハグモ科	
ネコハグモ	y1
ウズグモ科	
マネキグモ	y1
タナグモ科	
クサグモ	y8
コクサグモ	y26
キシダグモ科	
イオウイロハシリグモ	y6
スジブトハシリグモ	y1
コモリグモ科	
ハラクロコモリグモ	♂1
ササグモ科	
ササグモ	♂y1, y1
サラグモ科	
ハラジロムナキグモ	♂2, ♀11
ヒメグモ科	
オオヒメグモ	♂2, ♀2, y2
オナガグモ	y1
カグヤヒメグモ	♀1
カレハヒメグモ	♀1
コンピラヒメグモ	y2
ツリガネヒメグモ	♂y1
バラギヒメグモ	♂1, ♀7
フタオイソウロウグモ	♂y1
アシナガグモ科	
アシナガグモ	♂1, ♀1, y4
ウロコアシナガグモ	♂1
コシロカネグモ	y1
コガネグモ科	
イエオニグモ	♂1
オオクマヤミイロオニグモ	♂1

ギンメッキゴミグモ	♀1
コガネグモ	y2
<i>Neoscona</i> sp.	y7
エビグモ科	
アサヒエビグモ	y2
カニグモ科	
コカニグモ	♀1
コハナグモ	y2
ハナグモ	♀1, y1
ワカバグモ	♀1, y3
ネコグモ科	
ネコグモ	♀5
ハエトリグモ科	
チャイロアサヒハエトリ	y3
デーニッツハエトリ	♀2
ネコハエトリ	y1
マミジロハエトリ	♂1
ヤガタアリグモ	♂1, y3
ヤサアリグモ	♂1

修学院音羽川ダム (2012.6.23)  
N35°3'5" E135°48'25" 標高 160 m

タナグモ科	
コクサグモ	y3
コモリグモ科	
ウヅキコモリグモ	♂3, ♀2, y1, 卵のう2
ヒメグモ科	
コンピラヒメグモ	♂1, y2
カグヤヒメグモ	♀1
ジョロウグモ科	
ジョロウグモ	y21
アシナガグモ科	
アシナガグモ	y5
コシロカネグモ	y1
ヤサガタアシナガグモ	♀1
コガネグモ科	
ギンメッキゴミグモ	♂1
ヤマシロオニグモ	♀1
コマチグモ科	
ヤサコマチグモ	♂1
フクログモ科	
ムナアカフクログモ	♂1, ♀1, y2
ハエトリグモ科	
ジャバラハエトリ	♂1, ♀1, y1
ヤサアリグモ	♂3, ♀1

精華大学寮裏 (2012.6.23)  
N35°3'5" E135°48'8" 標高 130 m

ウズグモ科	
カタハリウズグモ	♂1
タナグモ科	
コクサグモ	y19
キシダグモ科	
イオウイロハシリグモ	♂y1, y3
コモリグモ科	
チビコモリグモ	♀1
センショウグモ科	
センショウグモ	♂1, ♀1, y2

ヒメグモ科		ハグモ科	
カニミジングモ	♂1, ♀2	ネコハグモ	♂2, ♂y1, y3
ジョロウグモ科		ウズグモ科	
ジョロウグモ	y2	マネキグモ	y1
アシナガグモ科		ヤマウズグモ	♀2, y1
アシナガグモ	♀1	タナグモ科	
オオシロカネグモ	♂1, ♀1	コクサグモ	♂2, ♀2
キララシロカネグモ	y1	キシダグモ科	
<i>Metleucauge</i> sp.	y3	アズマキシダグモ	y2
コガネグモ科		ササグモ科	
ゴミグモ	♀1	ササグモ	y1
サツマノミダマシ	y1	センショウグモ科	
ワキグロサツマノミダマシ	y1	オオセンショウグモ	♂1
<i>Argiope</i> sp.	y1	サラグモ科	
エビグモ科		アシナガサラグモ	♀2
シャコグモ	♀1	クロナンキングモ	♂1, ♀1
ハエトリグモ科		ユノハマサラグモ	y1
アリグモ	♀1, y1	ヒメグモ科	
*ナカヒラハエトリ	♀2	オオヒメグモ	♀2, y1
		オナガグモ	y1
<b>修学院坪江町 (2012.6.24)</b>		カグヤヒメグモ	♂1, ♀3, y7
<b>N35°3'0" E135°48'0" 標高 80 m</b>		カニミジングモ	♂y1
ユウレイグモ科		シロカネイソウロウグモ	♀2
シモングモ	♀1	チリイソウロウグモ	♀1, y1
		マダラヒメグモ	y1
<b>精華大学寮裏 (2012.8.8)</b>		ムナボシヒメグモ	y3
<b>N35°3'5" E135°48'8" 標高 130 m</b>		ジョロウグモ科	
ヒメグモ科		ジョロウグモ	♂y1, y1
カグヤヒメグモ	♂1, y2	アシナガグモ科	
シロカネイソウロウグモ	♂1	アシナガグモ	y1
フタオイソウロウグモ	y1	ウロコアシナガグモ	y1
クロマルイソウロウグモ	y1	ヤマジドヨウグモ	♂1
		コガネグモ科	
<b>八町平中腹 (2012.9.15)</b>		コゲチャオニグモ	♂1
<b>N35°14'0" E135°50'25" 標高 600 m</b>		トガリオニグモ	y1
タマゴグモ科		ワキグロサツマノミダマシ	♀2
ダニグモ	♀1	<i>Cyclosa</i> sp.	y3
コモリグモ科		エビグモ科	
チビコモリグモ	♀1, y4	アサヒエビグモ	y7
ヒメグモ科		シャコグモ	y3
ツリガネヒメグモ	y3	カニグモ科	
コガネグモ科		クマダハナグモ	♂y1
ヤマトゴミグモ	♀1	コハナグモ	y4
<i>Araneilla</i> sp.	y1	セマルトラフカニグモ	♀1
コマチグモ科		ハナグモ	y3
<i>Cheiracanthium</i> sp.	y3	ワカバグモ	y3
カニグモ科		<i>Xysticus</i> sp.	y6
アマギエビスグモ	y2	ウエムラグモ科	
ネコグモ科		イタチグモ	y2
コムラウラシマグモ	y1	ネコグモ科	
ウラシマグモ sp.	♂y1, y13	オトヒメグモ	♂1
ハエトリグモ科		ネコグモ	y10
<i>Neon</i> sp.	y1	ハエトリグモ科	
		アダンソンハエトリ	♀1, y1
<b>宝ヶ池公園 (2012.9.22)</b>		デーニツハエトリ	♀2
<b>N35°3'45" E135°47'10" 標高 80 m</b>		ネコハエトリ	y1
ユウレイグモ科		ヤガタアリグモ	y1
ユウレイグモ	y5		

## 比叡弁財天碑 (2011.9.8)

N35°3'10" E135°49'25" 標高 440 m

タマゴグモ科	
ダニグモ	♀1
ナミハグモ科	
Gen. sp.	♂y2, y6
カチドキナミハグモ	♀1
コモリグモ科	
ウヅキコモリグモ	y1
チビコモリグモ	♀2
<i>Pirata</i> sp.	y7
ヒメグモ科	
カニミジグモ	y1
カニグモ科	
トラフカニグモ	y1

## 比叡山人エスキー場 (2011.9.14)

N35°4'0" E135°49'35" 標高 770 m

キシダグモ科	
アズマキシダグモ	y1
コモリグモ科	
チビコモリグモ	♀5
<i>Pardosa</i> sp.	y1
サラグモ科	
デーニツツサラグモ	♀1
<i>Arcuphantes</i> sp.	♂y6, y10
アシダカグモ科	
Gen. sp.	y1
カニグモ科	
オビボソカニグモ	y1
ハエトリグモ科	
ウススジハエトリ	♂1

## グランドミュージアム比叡 (2011.9.14)

N35°3'54.4" E135°49'37.5" 標高 825 m

マシラグモ科	
☆Gen. sp.	♀1
タナグモ科	
コクサグモ	♂3, ♀1
コモリグモ科	
ウヅキコモリグモ	y1
ハリゲコモリグモ	y3
<i>Trochosa</i> sp.	♂y1, y1
サラグモ科	
フタスジサラグモ	♂1, ♀16
アシナガサラグモ	y1
スソグロサラグモ	y2
ムネグロサラグモ	y4
ユノハマサラグモ	y3
ヒメグモ科	
アマミミジグモ	♂1, ♀9, ♂y9, y15
カグヤヒメグモ	♀1
シモフリヒメグモ	y2
シモフリミジグモ	♂4, ♀7
ヒシガタグモ	♂y1, y3
ボカシミジグモ	y1
ムナボシヒメグモ	♂y2, y26
ユノハマヒメグモ	y1
<i>Parasteatoda</i> sp.	y10

## アシナガグモ科

ウロコアシナガグモ	y4
コシロカネグモ	y5
<i>Metleucauge</i> sp.	y1
コガネグモ科	
カラフトオニグモ	y34
ギンメッキゴミグモ	♀1, y1
<i>Araneus</i> sp.	♂y1, y2
<i>Araniella</i> sp.	y21
<i>Cyclosa</i> sp.	y1
コマチグモ科	
アカスジコマチグモ	y12
イツツグモ科	
イツツグモ	♂y1, y3
エビグモ科	
アサヒエビグモ	y37
キンイロエビグモ	y6
カニグモ科	
アマギエビスグモ	♂y11, y22
オビボソカニグモ	y1
クマダハナグモ	y1
コハナグモ	y19
チクニエビスグモ	♂y1, y20
<i>Xysticus</i> sp.	y1
フクログモ科	
ヤハズフクログモ	♀1, y1
ネコグモ科	
ネコグモ	y5
<i>Phrurolithus</i> sp.	y2
ハエトリグモ科	
オオハエトリ	♀1
カラスハエトリ	♂1, y2
Gen. sp.	y4

## グランドミュージアム比叡西口下 (2011.9.14)

N35°3'54.4" E135°49'37.5" 標高 780 m

タナグモ科	
コクサグモ	♂y1
キシダグモ科	
アズマキシダグモ	y1
コモリグモ科	
イモコモリグモ	♀1
サラグモ科	
フタスジサラグモ	♂1
ムネグロサラグモ	♀1, y5
ユノハマサラグモ	y3
ヒメグモ科	
アマミミジグモ	♀1, y1
カニミジグモ	♂y1
ヒシガタグモ	y3
ムナボシヒメグモ	y1
ユノハマヒメグモ	y1
アシナガグモ科	
<i>Leucauge</i> sp.	y1
<i>Metleucauge</i> sp.	y2
コガネグモ科	
カラフトオニグモ	y1
コオニグモモドキ	y1
ヨツデゴミグモ	♂y1



<i>Araneus</i> sp.	y2
<i>Araniella</i> sp.	y2
<i>Argiope</i> sp.	y1
エビグモ科	
アサヒエビグモ	y7
キンイロエビグモ	y1
カニグモ科	
アマギエビスグモ	♂y7, y9
クマダハナグモ	♂y1, y3
コハナグモ	y2
ワカバグモ	♂y1, y15
<i>Xysticus</i> sp.	y2
フクログモ科	
<i>Clubiona</i> sp.	y6
ネコグモ科	
コムラウラシマグモ	♂2
ネコグモ	y8
<i>Phrurolithus</i> sp.	♂y1, y2
ハエトリグモ科	
ジャバラハエトリ	♀1
デーニッツハエトリ	♂1, y2
ヨダンハエトリ	♀1

左京区修学院辻の田町 (2011.10.5)  
N35°3'7" E135°48'8" 標高 150 m

タナグモ科	
コクサグモ	♂2, ♀5
キシダグモ科	
イオウイロハシリグモ	y25
コモリグモ科	
ナミコモリグモ	♀3, ♂y8
ササグモ科	
ササグモ	y5
サラグモ科	
アトグロアカムネグモ	♀1
アシナガグモ科	
アシナガグモ	y28
ヒメアシナガグモ	y1
メガネドヨウグモ	y1
ヤサガタアシナガグモ	y16
コガネグモ科	
ナガコガネグモ	♀1
エビグモ科	
アサヒエビグモ	y7
カニグモ科	
アズチグモ	y2
コハナグモ	y15
セマルトラフカニグモ	y1
ハナグモ	♂3, y15
ワカバグモ	y2
フクログモ科	
<i>Clubiona</i> sp.	y4
ハエトリグモ科	
オスクロハエトリ	♂1
キレワハエトリ	y1
マミジロハエトリ	♂1, ♀1

八幡市背割桜 (2011.10.28)  
N34°53'30" E135°41'0" 標高 50 m

コモリグモ科	
ウヅキコモリグモ	♂y3, y3
エビチャコモリグモ	♂2
<i>Pirata</i> sp.	y3
ササグモ科	
ササグモ	y1
サラグモ科	
クロナンキングモ	♂1, ♀1
スソグロサラグモ	y3
ヒメグモ科	
ヤホシヒメグモ	y6
アシナガグモ科	
アシナガグモ	y12
ウロコアシナガグモ	y9
トガリアシナガグモ	y2
ヤサガタアシナガグモ	y2
<i>Leucauge</i> sp.	y8
コガネグモ科	
キザハシオニグモ	y3
コマチグモ科	
<i>Cheiracanthium</i> sp.	y11
シボグモ科	
シボグモ	y1
カニグモ科	
ハナグモ	♂2, y1
アズマキシダグモ	y4
イオウイロハシリグモ	y30
フクログモ科	
ミチノクフクログモ	♂1, ♀1
<i>Clubiona</i> sp.	y4
ネコグモ科	
オトヒメグモ	♀1
ハエトリグモ科	
ヤハズハエトリ	♂y1, y3
オスクロハエトリ	♂1, y1
マミクロハエトリ	♂4, y1
メガネアサヒハエトリ	♀1
<i>Phintella</i> sp.	y7

八幡市淀川河川敷公園 (2011.10.28)  
N34°53'30" E135°41'30" 標高 40 m

タナグモ科	
コクサグモ	♀1
キシダグモ科	
アズマキシダグモ	y1
イオウイロハシリグモ	y5
ササグモ科	
ササグモ	y4
サラグモ科	
スソグロサラグモ	♂1, y1
ジョロウグモ科	
ジョロウグモ	♀1
アシナガグモ科	
アシナガグモ	y6
ウロコアシナガグモ	y2
トガリアシナガグモ	y6
ヤサガタアシナガグモ	y1

<i>Leucauge</i> sp.	y19	カニグモ科	
ヒメグモ科		ハナグモ	♂2, y3
シロカネイソウロウグモ	y11	<i>Xysticus</i> sp.	y1
ヤホシヒメグモ	y1	フクログモ科	
コガネグモ科		<i>Clubiona</i> sp.	y7
ナガコガネグモ	♀1	ハエトリグモ科	
<i>Cyclosa</i> sp.	y1	アリグモ sp.	y3
<i>Larinia</i> sp.	y1	ヤハズハエトリ	♂y1
コマチグモ科		マミジロハエトリ	♀1
<i>Cheiracanthium</i> sp.	y1	ヤガタアリグモ	♂y1
エビグモ科			
アサヒエビグモ	y1		

### 府県新記録種など

滋賀県の新記録種はキシベコモリグモ (コモリグモ科), スソグロサラグモ, カンサイオオイヤマケシグモ (サラグモ科), ヤマジハエトリ (ハエトリグモ科) の4種であった (新海ほか 2016). これに加えてマシラグモ科の1種とサラグモ科の *Nippononeta* sp. は, 成体であるが同定できなかった. 未記載種の可能性もある.

京都府の新記録種は, シロホシヒメグモ (ヒメグモ科), ナカヒラハエトリ (ハエトリグモ科) の2種であった (新海ほか 2016). これに加えて, マシラグモ科の1種は, 成体であるが同定できなかった. 未記載種の可能性もある.

### 引用文献

新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2016. CD 日本のクモ ver. 2016. 著者自刊.

## 阪神地方の冬のクモ

清水 裕行

2016年から2018年にかけて、兵庫県の阪神地方の住宅地および山林でクモの冬季採集をする機会があったので、その成果を報告する。

### 1. 採集年月日と採集地

- (1) 2016年1月15日：芦屋市東山町・東山緑地。クロマツ林を中心とした緑地。
- (2) 2016年1月16日：芦屋市朝日ヶ丘町。住宅地。
- (3) 同日：芦屋市東芦屋町・東芦屋公園。芦屋神社に隣接した小公園。
- (4) 2016年1月17日：芦屋市東山町・東山緑地。
- (5) 同日：西宮市川西町。阪神「香櫨園」駅付近のガード下。
- (6) 2016年1月18日：芦屋市大榎町・大榎公園。都市公園。
- (7) 2016年1月28日：芦屋市朝日ヶ丘町・山麓公園。市立芦屋病院に隣接した小公園。
- (8) 2016年1月31日：芦屋市浜芦屋・芦屋公園。クロマツ林を中心とした緑地。
- (9) 2017年2月25日：伊丹市昆陽池（こやいけ）・昆陽池公園。伊丹市昆虫館も域内にある。
- (10) 2018年1月13日：川西市笹部。「山下道」等のハイキングコース。
- (11) 同日：川西市山下・城山。戦国末期に廃城となった山下城の史跡。
- (12) 2018年1月27日：川西市山下・城山。

### 2. 採集リスト

種名の表記と科の配列は、小野展嗣編著『日本産クモ類』（2009年、東海大学出版会）に準拠した。ステージの表記は以下のとおり。♀a・♂a：成体。♀j・♂j：未成熟だが性別が判定できるもの（亜成体等）。j：幼体等で性別判定が困難なもの。

#### 【エンマグモ科】

##### (1) ミヤグモ *Ariadna lateralis*

- 2016/1/17, 芦屋市東山緑地, 1♀a. クロマツの樹皮裏。子グモも採集。芦屋市初記録。  
2018/1/13, 川西市笹部, 1♀a. ヒノキの樹皮裏。子グモも採集。  
2018/1/27, 川西市山下, 1♀j. ヒノキの樹皮裏。

#### 【チリグモ科】

##### (2) チリグモ *Oecobius navus*

- 2016/1/16, 芦屋市東芦屋公園, 4♀j. 野外トイレの内壁。

#### 【ガケジグモ科】

##### (3) クロガケジグモ *Badumna insignis*

- 2016/1/31, 芦屋市芦屋公園, 1♀a. 野外トイレの天井。

#### 【ハグモ科】

##### (4) ネコハグモ *Dictyna felis*

- 2016/1/16, 芦屋市朝日ヶ丘町, 1♀a. 川端のフェンス。芦屋市初記録。

#### 【ヤチグモ科】

##### (5) シモフリヤチグモ *Iwogumoa insidiosa*

- 2017/2/25, 伊丹市昆陽池公園, 1♀a. クロマツの樹皮裏。

#### 【サラグモ科】

##### (6) コデーニッツサラグモ *Doenitzius pruvus*

- 2018/1/27, 川西市山下, 1♀a. 落ち葉層。川西市初記録。

#### 【ピモサラグモ科】

##### (7) アシヨレグモ *Weintrauboa contortipes*

- 2018/1/13, 川西市山下, 2♀a. ヒノキの樹皮裏。川西市初記録。

#### 【ヒメグモ科】

##### (8) マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa*

- 2016/1/18, 芦屋市大榎町, 1♀a. 野外トイレの内壁。芦屋市初記録。



- (9) セアカゴケグモ *Latrodectus hasselti*  
2017/2/25, 伊丹市昆陽池公園, 1♀a. ベンチ下部. 同市内では2011年に初めて確認された.
- (10) オオヒメグモ *Parasteatoda tepidariorum*  
2016/1/28, 芦屋市朝日ヶ丘町, 1♀j.  
2017/2/25, 伊丹市昆陽池公園, 1♀a. 野外トイレの内壁.  
【コガネグモ科】
- (11) イエオニグモ *Nosecona nautica*  
2016/1/17, 西宮市川西町, 1♀a・1♂j. コンクリート壁.  
【アシダカグモ科】
- (12) コアシダカグモ *Sinopoda forcipata*  
2017/2/25, 伊丹市昆陽池公園, 1j. 野外トイレの内壁.  
2018/1/27, 川西市山下. 2♀j. ヒノキの樹皮裏と城山の小社「愛宕神社」裏手に積んであった古瓦の間.  
【カニグモ科】
- (13) キハダカニグモ *Bassaniana decorata*  
2016/1/17, 芦屋市東山緑地, 1♀a・1j. クロマツの樹皮裏. 芦屋市初記録.
- (14) コカニグモ *Coriarachne fulvipes*  
2016/1/15, 芦屋市東山緑地, 1♀a. クロマツの樹皮裏. 芦屋市初記録.  
【フクログモ科】
- (15) ヤハズフクログモ *Clubiona jucunda*  
2016/1/31, 芦屋市芦屋公園, 1♀a. クロマツの樹皮裏. 阪神地方初記録.  
【エビグモ科】
- (16) キンイロエビグモ *Philodromus auricomus*  
2018/1/13, 川西市笹部. 1♀j. アカマツの樹皮裏. 川西市初記録.
- (17) キハダエビグモ *P. spinatarsis*  
2016/1/15, 芦屋市東山緑地, 1♀a. クロマツの樹皮裏. 芦屋市初記録.  
2016/1/17, 芦屋市東山緑地, 2♀a・2♂a. クロマツの樹皮裏.  
2017/2/25, 伊丹市昆陽池公園, 1♀a. クロマツの樹皮裏.  
2018/1/13, 川西市笹部. 1♀j. アカマツの樹皮裏. 川西市初記録.  
【イツツグモ科】
- (18) イツツグモ *Anyphaena pugil*  
2018/1/13, 川西市笹部. 1♂a. 落ち葉層.  
【ハエトリグモ科】
- (19) アシブトハエトリ *Pancorius crassipes*  
2018/1/13, 川西市山下. 1♀j. 愛宕神社の古瓦の間. 川西市初記録.  
2018/1/27, 川西市山下. 1♀a. 同上.

### 3. 補足

#### (1) 突然の入院と決意

私事になるが、筆者は2015年の12月に入院した。胃の調子が悪いので、市立芦屋病院で診てもらったところ、胃潰瘍で即入院となった。入院中の検査で「自己免疫性肝炎」に罹患していたこともわかった。症状は軽かったのだが（とはいえ、ピロリ菌による潰瘍が5ヶ所）、検査中に出血があり、再度出血した場合は輸血が間に合わずにショック死の恐れもあったと後で聞かされた。翌年1月の半ばに退院したが、あそこで斃れていたら、長年の採集品は、最悪ただの動物の死骸の集積というゴミとして処理されてしまう。それを防ぐためには、最低限のデータを付して後世の研究に耐えうるものにしなければならない。このような反省から、これまでに蓄積した標本に関してはリストにまとめて公表していくことが必要と気づいた。「数が揃ってから発表しよう」ではなくて、気づいたものから公表しようと思った。またリハビリを兼ねて、調査の手薄な阪神地方の都市部の探索を進めることを思い立った。2016年の一連の報告はその一環である。

#### (2) 伊丹・昆陽池の採集

伊丹市昆虫館は同市の「昆陽池公園」の敷地内にある施設で、加村隆英氏の講師によるクモ観

察会がしばしば開催されている。その成果は本誌にも掲載されており、都市部の中自然<注>のクモ相を語る貴重な資料となっている。筆者も機会あるごとに参加しているが、調査が通常、春～秋季に限られており、冬季のデータが乏しいことを残念に思い、単独で実施することにした。あいにく鳥インフルエンザの影響で、昆陽池周辺は立ち入り禁止となっており、池を周回する遊歩道で採集したのみで、僅かな成果に終わった。これまでの同公園のデータに厚みを加えるものとなれば幸いである。

### (3) 川西市の観察会

2018年1月13日に「川西自然教室」の1月例会に参加した。コースは以下の通りである。能勢電鉄「光風台」駅に集合。新光風台（大阪府豊能郡豊能町）の住宅地を経て、ハイキングコース「山下道」（ここからが川西市）に入る。「山下道」から分かれて、戦国末期に廃城となった山下城の史跡である「城山」に至る。その後下山して、能勢電「山下」駅で解散。

「川西自然教室」は長年に渡って市内の自然観察や保全（河原の清掃等）を続けてきた住民による自発的な活動の団体である。筆者は以前、同会主催のクモ観察会で講師を務めさせていただいた。これが縁で会誌『こげらだより』を毎号送っていただいている。以前から、通常の活動にも参加したいと願っていたが、この程ようやく実現した。川西市内におけるクモの記録は90種強と決して少なくはないが、そのほとんどが能勢妙見山のもので、他地域のものは僅かである。これを機会に同市の記録を充実していきたい。なお、今回の報告に先立ち、成果が『こげらだより』に略報として掲載されたことを申し添えておく（恵須川 2018）。

### (4) 城山に再度挑戦

1月例会の翌週に、単独で城山に赴いた。ハイキングがてらの採集のためか、収穫が少なかったのりでベンジを試みたのである。残念ながら収穫はさらに少なかった。厳寒の時期とはいえ、六甲山ではもっと多彩なクモが見られたと記憶している。今後の課題であろう。

## 4. 後書き

今回報告した採集活動は「調査」とも言えない小規模なもので、特に筆者の居住地である芦屋市の場合は、散策がてらといった手軽なものであった。従って、収穫物も「目についたものを取りあえず採集した」という程度で種数も少ない。しかし上記のように、各市における初記録や、阪神地方で未記録だったと思われる種が確認された。本小報はファウナを論ずるまでには至らないが、阪神地方の採集記録に若干の追加ができたという点でいささかの意義があったと自己評価している。

2017年現在で、兵庫県全体で確認されたクモは、未発表のものを含めて492種ということである（本庄 2017）。これに対して阪神地方の記録は300種に満たないものと思われる。域内の市町で100種を越えているのは宝塚市のみで、筆者の調べでは142種が記録されている。川西市は96種で、今回の報告で辛うじて100種に達した。伊丹市は1990年代までに83種が確認されていたが、近年、市昆虫館と本会による昆陽池周辺の調査が頻繁に実施され、記録が追加されており、未発表のものを含めると100種を越えた可能性がある。他の自治体では50種台までであり、芦屋市に至っては、外来種であるセアカゴケグモを含めても10種に満たないというありさまである。宝塚市の記録が阪神地方で突出しているのは、2004年に本会によって採集会が実施されたためである。この結果、それまで25種であった同市の記録が一挙に100を越えた。

このように阪神地方の記録が乏しい責任の一端は、阪神地方（神戸市・西宮市・芦屋市）に約50年居住してクモを調査し続けていながら、その成果を僅かしか報告していなかった筆者にあることは間違いない。今後新たな調査を展開するとともに、これまでの成果を小出しにでも公表していきたいと考えている。

最後になったが、昆陽池公園の調査に便宜を図ってくださる奥山清市館長を始めとした伊丹市

<注>「中自然」は筆者の造語である。人工物のほとんどない山岳や大森林が「大自然」、都市部の街路樹・植込み・庭園等のように人工物に囲まれて主に小型の野性動植物が生息している環境が「小自然」と呼ばれているのに対して、人の手が加わっているものの、一定の範囲の植生を保つ場所、大自然から切り離されているが、都市環境からもある程度隔離された環境をこう名付けた。規模の大きい社寺林・都市の自然公園・一級河川の河川敷等がこれに当たる。

昆虫館の皆様、川西市の観察会でお世話になった「川西自然教室」の会員の皆様、常日頃、筆者に情報と助言をくださり、同定の面でも助力していただいている西川喜朗・加村隆英の両氏に感謝の意を表したい。

参考文献（同定に用いたものは除く）

恵須川満延 2018. 2018.1.13 1月例会 光風台～山下道 アップダウンの差が少ない運動不足の人向き. こげらだより, 290: 2-4.

本庄四郎 2017. クモ類. P. 11. In: 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2017 (哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類).

## 滋賀県 山門水源の森におけるトラフワシグモの採集記録

伊藤 博

トラフワシグモ（ワシグモ科）は、新海ら（2016）によれば全国的に広く分布していますが、滋賀県は数少ない未記録県の一つでした。このたび、本種が滋賀県内で採集されましたので、滋賀県新記録として報告します。同定は加村隆英先生にお願いしました。

採集日 2018年3月10日（滋賀県新記録）。

採集地 滋賀県長浜市西浅井町、山門水源の森、南部湿原西側法面（図1）。

採集個体 1雌幼体（図2）。



図1. トラフワシグモの採集地点。[この図は、国土地理院の電子国土基本図に改変（地名等の追加と徒歩道の強調表示）を加えたものである。]



図2. 採集したトラフワシグモの雌幼体。

採集時の状況は以下の通りです。

- ・周囲環境：湿原に隣接した緩い法面で、コナラ、カエデ類、アカマツ、ヒサカキ、シロモジなどが混在する雑木林。
- ・採集時の状況：希少植物保護のための防獣ネット復旧作業中、トタン波板を深さ約30 cmの積雪の中から掘り出そうとした際、重ねた波板を持ち上げたとき逃げ出すものが複数見つかり、採集しました。積雪中の作業でもあり、採集用具を持参していなかったため小銭入れで1頭のみ捕獲できました。その際の不手際で脚が1本とれてしまいました。フィルムケースなど、採集用具を常時携帯する必要性を実感した次第です。

参考文献

新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2016. CD日本のクモ ver. 2016. 著者自刊。

新海栄一 2017. ネイチャーガイド 日本のクモ（増補改訂版）。文一総合出版, 407 pp.

## 関西クモ研究会採集会の記録 (2017 年度)

2017年度の採集会は、5月28日および10月1日に、近畿大学農学部のキャンパス（奈良県奈良市中町）で実施した。両日とも、近畿大学農学部環境管理学科の澤島拓夫先生に、ご多忙の中、現地を案内していただいたり、教室使用の便宜を図っていただいたりして、たいへんお世話になった。厚くお礼申し上げる。

### 参加者

- ・2017年5月28日：荒川 真，伊藤 博，上村友久，加村隆英，岸本正也，関根幹夫，竹内めぐみ，竹内遥城，竹内敦城，徳田栄美子，西川喜朗，船曳和代，松本吏樹郎，松本舞子，村上協三，山田廣士，吉田 真 (17名)。
- ・2017年10月1日：荒川 真，伊藤 博，上村友久，加村隆英，黒田あき，嶋澤 聡，関根幹夫，高見咲恵，田尻哲也，西川喜朗，服部まりこ (11名)。

確認されたクモは表1のとおりである。参加者による採集物のほとんどを加村隆英が預かり、標本の同定は加村が行った。

今回確認された種のうち、クスマダニグモ、ヤマトフトバワシグモ、オビジガバチグモ、エクスハエトリの4種は奈良県初記録である（新海ら 2016）。

表1. 近畿大学農学部構内（奈良市中町）で確認されたクモ（2017年5月28日および10月1日）。標本と採集者の対応が明瞭ではないものが多いので、奈良県初記録種を除いては、採集者名は記していない。幼体は、juv. と表記した。括弧内の数字は日付である。科の分類と配列は、原則として小野（2009）に準じたが、一部は谷川（2017）を参考にした。

### ジグモ科

ジグモ 巣を確認 (10/1)

### タマゴグモ科

クスマダニグモ 1♀ (5/28) [奈良県初記録，加村隆英 採集]

### ガケジグモ科

クロガケジグモ 複数目撃 (10/1)

### ウズグモ科

ヤマウズグモ 1♂ (5/28)

カタハリウズグモ 1♀ (5/28)

### ヤチグモ科

メガネヤチグモ 1♀ (5/28)

### タナグモ科

コクサグモ 複数目撃 (10/1)

### キシダグモ科

*Dolomedes* sp. 1juv. (5/28); 4juv. (10/1)

### コモリグモ科

チビコモリグモ 1♀ (5/28)

*Pardosa* sp. 1♀ (5/28)

### ササグモ科

ササグモ 1♂juv. (5/28); 1♀, 1♀juv. (10/1)

### センショウグモ科

センショウグモ 1♂juv. (5/28)

*Mimetus* sp. 1juv. (5/28); 1juv. (10/1)

### サラグモ科

アシナガサラグモ 2♀ (10/1)

ムネグロサラグモ 1♀ (5/28)

### ヒメグモ科

カレハヒメグモ 2♀ (5/28)

セアカゴケグモ 3♀, 3♂juv. (10/1)

ムラクモヒシガタグモ 1♂juv. (5/28)

スネグロオチバヒメグモ 1♀2♂ (5/28)

アシプトヒメグモ 1♀ (5/28)

バラギヒメグモ 1♀ (5/28)

オオヒメグモ 2♀ (5/28); 1♀juv. (10/1)

カグヤヒメグモ 1♀ (5/28)

シロカネイソウロウグモ 1juv. (5/28); 1♀, 1juv. (10/1)

オナガグモ 1juv. (10/1)

### ジョロウグモ科

ジョロウグモ 複数目撃 (10/1)

### アシナガグモ科

キンヨウグモ 1♂ (10/1)

チュウガタシロカネグモ 1♀ (5/28); 1♀ (10/1)

コシロカネグモ 1♂ (5/28)

キララシロカネグモ 1♂ (5/28)

ヤサガタアシナガグモ 1♀ (5/28)

### コガネグモ科

ナガコガネグモ 1♀目撃 (10/1) (図1)

コガタコガネグモ 1♀ (10/1)

ゴミグモ 1♀ (5/28); 1♀juv. (10/1)



シマゴミグモ 2♀ (5/28)  
ギンメッキゴミグモ 1♀ (5/28)  
*Cyclosa* sp. (ギンナガゴミグモ ?) 1juv. (10/1)  
ワキグロサツマノミダマシ 2♀ (10/1)  
ヤマシロオニグモ 2juv. (5/28)  
ハツリグモ 1♀juv. (10/1)  
**ツチフクログモ科**  
イタチグモ 7juv. (5/28); 1♀juv. (10/1)  
**エビグモ科**  
シャコグモ 1♀ (5/28)  
アサヒエビグモ 1♂juv. (5/28)  
キンイロエビグモ 1♀juv. (10/1)  
**ワシグモ科**  
ヤマトフトバワシグモ 1♂ (5/28) [奈良県初記録, 荒川真 採集]  
エビチャヨリメケムリグモ 1♂ (5/28)  
マエトビケムリグモ 1♂ (5/28)  
**カニグモ科**  
ワカバグモ 1♂juv. (10/1)  
*Tmarus* sp. 1juv. (5/28)  
キハダカニグモ 1♂ (5/28)  
ヤミイロカニグモ 1♀ (5/28)

ニッポンオチバカニグモ 1♀ (5/28); 1♂ (10/1)  
ガザミグモ 1♀, 1♂ (5/28)  
**ウラシマグモ科**  
オトヒメグモ 1♀ (5/28); 1♀ (10/1)  
ヤバネウラシマグモ 2juv. (5/28)  
**ハチグモ科**  
オビジガバチグモ 1♂ (5/28) [奈良県初記録, 荒川真 採集]  
**ハエトリグモ科**  
アリグモ 1♂ (5/28)  
ヤガタアリグモ 1♂ (10/1)  
ネコハエトリ 1♀juv., 1♂juv. (10/1)  
ヤマジハエトリ 1♂ (10/1)  
アオオビハエトリ 1♀ (5/28); 1♂juv. (10/1)  
デーニツツハエトリ 1♀, 1♂ (10/1)  
マミジロハエトリ 2♂ (5/28)  
ヨダンハエトリ 1♀ (5/28)  
ウデブトハエトリ 1♀juv. (10/1)  
エクスハエトリ 1♀ (5/28) [奈良県初記録, 荒川真 採集]



図 1. ナガコガネグモ. 近畿大学農学部構内 (奈良市中町), 2017年10月1日. 撮影: 加村隆英.



図 2. 2017年10月1日の採集会に参加した皆さん.

#### 文献

小野展嗣 (編) 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会.  
新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2016. CD 日本のクモ ver. 2016. 著者自刊.  
谷川明男 2017. 日本産クモ類目録 ver. 2017R1. <http://www.asahi-nct.or.jp/~dp7a-tknw/japan.pdf>

(文責: 加村隆英)

## 関西クモ研究会 2017 年度例会の記録

2017 年 12 月 17 日（日）に大阪市立自然史博物館で 2017 年度の例会が開催された。

### 役員会

例会に先立って、役員会が開かれた。出席者：田中穂積（会長）、加村隆英（編集）、西川喜朗・船曳和代（顧問）、関根幹夫（会計監査）。

以下の事項が審議、報告された。

(1) 会費納入状況について。2017 年 12 月 14 日現在の会費納入状況が報告された。ほぼ半数の会員が 2016 年度分までしか納入していないので、納入を促す必要がある。

(2) 「くものいと」の編集状況。2017 年 3 月に第 50 号を発行した。第 51 号を 2018 年 3 月に発行する予定。

### (3) 2017 年度の行事予定

- ・採集会 2018 年 5 月 27 日（日）、場所：枚岡公園（大阪府東大阪市）。
- ・合宿採集会 2018 年 9 月 8 日（土）～ 9 日（日）、場所：福井県大野市。
- ・例会 2018 年 12 月 16 日（日）、場所：大阪市立自然史博物館。

### 例会

出席者：赤松史憲、荒川 真、伊規須貞子、伊藤 博、上村友久、加村隆英、黒田あき、嶋澤 聡、清水裕行、新海 明、関根幹夫、田尻哲也、田中穂積、谷川明男、西川喜朗、西本 裕、福田孝男、船曳和代、榎元智子、松本吏樹郎、村上協三、山田廣士、吉田 真（計 23 名）。



例会参加者の皆さん。

### 講演発表

- (1) 新海 明：「橋糸はワク糸にならない」が「こしき糸は足場糸になる」
- (2) 関根幹夫：和歌山県におけるクロガケジグモの分布
- (3) 清水裕行：記紀・風土記に登場する『つちぐも』の考察
- (4) 谷川明男：ハモンヒメグモとリュウキュウヒメグモ
- (5) 伊藤 博：「山門水源の森現地交流会 常識くつがえすクモの世界」について
- (6) 黒田あき：飼育下におけるハツリグモが選ぶ葉について
- (7) 松本吏樹郎：日本産 *Zatypota* 属の 4 未記載種と寄主・寄主操作
- (8) 新海 明：クモの分布と分布拡大要因に関する仮説
- (9) 谷川明男・須黒達巳：ミヤコジマトタテグモのオスが判明した

講演の合間に、役員会で審議、報告した内容を出席者に紹介し、了承を得た。また、出席者全員が近況を報告した。

## 関西クモ研究会 2016 年度会計報告

収入：	2015 年度からの繰越金		424,302
	会費 2016 年度前受け分繰り入れ		42,000
	会費 2016 年度分入金		16,000
	会費過年度分入金		10,000
	伊丹昆虫館調査謝礼		66,222
	受取利子		4
=====			
	合計		558,528
支出：	くものいと No. 50	表紙用紙	1,620
	くものいと No. 50	発送用封筒	1,296
	くものいと No. 50	印刷費	1,900
	くものいと No. 50	郵送費	15,300
	採集会・例会等の案内郵送費		11,524
	ラベルシート郵送費		240
	宛名ラベルシート (2 冊)		1,748
	2017 年度への繰り越し		524,900
=====			
	合計		558,528

### 会費前受け状況

2016 年度末における会費前受け分の合計は、57,000 円である。

その内訳は次のとおり。2017 年度分 37,000 円；2018 年度分 10,000 円；2019 年度分 7,000 円；2020 年度分 2,000 円；2021 年度分 1,000 円。

上記のとおり、報告します。

会計幹事 吉田 真

## 2016 年度会計監査報告

関西クモ研究会 2016 年度会計について、関係諸票書類に基づき監査を行いました。その結果、適正に処理されていることを確認いたしましたことを報告いたします。

2017 年 4 月 14 日 会計監査 関根幹夫